

SYLLABAUS

製鉄記念八幡看護専門学校

2025 年度生

目 次

教育理念・教育目的・教育目標			ページ 1
教育課程一覧			2
教育課程進度表			3
試験計画表			4
基礎分野	科学的思考の基盤	生活科学	5
		教育学	6
		情報科学	7
		情報管理	9
		生命倫理	10
	人間の生活・社会の理解	心理学	11
		人間関係論	12
		社会学	13
		英語Ⅰ	14
		英語Ⅱ	16
		人間と文化活動	17
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	18
		解剖生理学Ⅱ	20
		看護形態機能学	22
		生化学	23
		微生物学	24
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(総論)	25
		看護の視点で病気をみるⅠ	26
		看護の視点で病気をみるⅡ	27
		病理学Ⅰ	28
		病理学Ⅱ	29
		病理学Ⅲ	31
		病理学Ⅳ	33
		病理学Ⅴ	34
		薬理学Ⅰ	35
		薬理学Ⅱ	36
		栄養学	37
	健康支援と社会保障制度	環境学	38
		公衆衛生学	39
		社会保障	40
		関係法規Ⅰ	41
		関係法規Ⅱ	42
専門分野	基礎看護学	看護学概論	43
		看護研究Ⅰ	44

専門分野		看護研究Ⅱ	45
		看護安全	46
		生活援助方法論	47
		ヘルスアセスメント	48
		看護過程方法論	49
		治療処置別看護Ⅰ	50
		治療処置別看護Ⅱ	52
		リハビリテーション看護論	54
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	55
		地域・在宅看護論Ⅰ	56
		地域・在宅看護論Ⅱ	57
		地域・在宅看護論Ⅲ	58
		地域・在宅看護論Ⅳ	59
	成人看護学	成人看護学概論	60
		成人看護学Ⅰ	61
		成人看護学Ⅱ	63
		成人看護学Ⅲ	65
		成人看護学Ⅳ	66
		成人看護学Ⅴ	68
	老年看護学	老年看護学概論	70
		老年看護学Ⅰ	71
		老年看護学Ⅱ	72
	小児看護学	小児看護学概論	73
		小児看護学Ⅰ	74
		小児看護学Ⅱ	75
	母性看護学	母性看護学概論	76
		母性看護学Ⅰ	77
		母性看護学Ⅱ	78
	精神看護学	精神看護学概論	79
		精神看護学Ⅰ	80
		精神看護学Ⅱ	82
	看護の統合と実践	看護管理	83
		看護倫理	84
		医療安全Ⅰ	85
		医療安全Ⅱ	86
	臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習	87
		基礎看護学Ⅱ実習	88
		地域・在宅看護論実習	89
		成人看護学実習	90
		経過別看護Ⅰ・Ⅱ実習	91
		老年看護学Ⅰ実習	92

		老年看護学Ⅱ実習	93
		小児看護学実習	94
		母性看護学実習	95
		精神看護学実習	96
		看護の統合と実践実習	97

教 育 理 念

看護の知識を深め、技術を磨き、博愛の精神を持って社会に貢献できる人材を育成する。

教 育 目 的

看護に必要な知識・技術・態度を修得すると共に、社会人としての豊かな人間性と倫理観を身につけ、質の高い安全な看護を提供できる看護師を育成する。

教 育 目 標

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力を養う。
2. 対象を中心としたチーム医療を提供するために、看護師としての人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいた安全な看護を実践するために必要な、臨床判断を行う基礎的能力を養う。
4. 健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、対象の健康上の課題、健康の状態、発達段階に応じて実践する基礎的能力を養う。
5. 保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割および他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養う。
6. 専門職業人としての倫理観を高め、主体的に学び、自己啓発し続ける能力を養う。

アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

1. 看護を学ぶ目的意識が明確である人。
2. 多様な価値観を受け入れる柔軟性がある人。
3. 人々の健康や生活に関心がある人。
4. 入学後の就学に必要な基礎学力を有している人。
5. 自ら学び続ける意欲のある人。
6. 社会の一員として自覚と責任感がある人。

看護基礎教育終了時の学生像

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として幅広く理解できる。
2. 科学的根拠に基づいた安全な看護を実践するための知識・技術を修得する。
3. 科学的思考をもとに状況を判断し、対象に必要な看護を考え実践できる。
4. 専門職業人としての自覚と責任を持ち、倫理観をもって行動できる。
5. さまざまな人々との関係性を築き、チームの一員として看護師の果たす役割を理解する。
6. 時代の変化や社会の動向に関心をもち、看護のニーズに対応できる。
7. 探究心・向上心をもって自己の看護観を発展させることができる。

教育課程一覧

教育内容		科目	単位	時間	1年		2年		3年	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	生活科学	1	15	1	15				
		教育学	1	30	1	30				
		情報科学	2	60	2	60				
		情報管理	1	15			1	15		
		生命倫理	1	30	1	30				
	人間の生活・社会の理解	心理学	1	30	1	30				
		人間関係論	1	30	1	30				
		社会学	1	30	1	30				
		英語Ⅰ	2	45	2	45				
		英語Ⅱ	2	30			2	30		
人間と文化活動	1	30	1	30						
小計		14	345	11	300	3	45		0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	45	2	45				
		解剖生理学Ⅱ	2	45	2	45				
		看護形態機能学	1	15	1	15				
		生化学	1	15	1	15				
		微生物学	1	30	1	30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学(総論)	1	30	1	30				
		看護の視点で病気をみるⅠ	1	30	1	30				
		看護の視点で病気をみるⅡ	1	30			1	30		
		病理学Ⅰ	1	15					1	15
		病理学Ⅱ	1	30			1	30		
		病理学Ⅲ	1	30			1	30		
		病理学Ⅳ	1	15					1	15
		病理学Ⅴ	1	15					1	15
		薬理学Ⅰ	1	15	1	15				
		薬理学Ⅱ	1	15			1	15		
	栄養学	1	15	1	15					
	健康支援と社会保障制度	環境学	1	15	1	15				
		公衆衛生学	1	15					1	15
		社会保障	2	30					2	30
		関係法規Ⅰ	1	15	1	15				
		関係法規Ⅱ	1	15					1	15
	小計		24	480	13	270	4	105	7	105
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30				
		看護研究Ⅰ	1	30	1	30				
		看護研究Ⅱ	1	30					1	30
		看護安全	1	15	1	15				
		生活援助方法論	2	90	2	90				
		ヘルスアセスメント	1	45	1	45				
		看護過程方法論	1	30	1	30				
		治療処置別看護Ⅰ	1	45	1	45				
		治療処置別看護Ⅱ	1	45			1	45		
		リハビリテーション看護論	1	30	1	30				
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	1	15				
		地域・在宅看護論Ⅰ	1	15			1	15		
		地域・在宅看護論Ⅱ	2	45			2	45		
		地域・在宅看護論Ⅲ	1	30					1	30
		地域・在宅看護論Ⅳ	1	15					1	15
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30				
		成人看護学Ⅰ	1	45			1	45		
		成人看護学Ⅱ	1	30	1	30				
		成人看護学Ⅲ	1	30	1	30				
		成人看護学Ⅳ	1	30			1	30		
		成人看護学Ⅴ	1	30			1	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30				
		老年看護学Ⅰ	2	30			2	30		
		老年看護学Ⅱ	1	30			1	30		
	小児看護学	小児看護学概論	2	45	2	45				
		小児看護学Ⅰ	1	30			1	30		
		小児看護学Ⅱ	1	30			1	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	1	30				
		母性看護学Ⅰ	1	15			1	15		
		母性看護学Ⅱ	2	60			2	60		
	精神看護学	精神看護学概論	1	15			1	15		
		精神看護学Ⅰ	2	45			2	45		
		精神看護学Ⅱ	1	30					1	30
	看護の統合と実践	看護管理	1	15					1	15
		看護倫理	1	30					1	30
		医療安全Ⅰ	1	30			1	30		
医療安全Ⅱ		1	30					1	30	
基礎看護学Ⅰ実習		1	45	1	45					
臨地実習	基礎看護学Ⅱ実習	2	90			2	90			
	地域・在宅看護論実習	2	90					2	90	
	成人看護学実習	2	90			2	90			
	経過別看護Ⅰ実習	2	90					2	90	
	経過別看護Ⅱ実習	2	90					2	90	
	老年看護学Ⅰ実習	2	90			2	90			
	老年看護学Ⅱ実習	2	90			2	90			
	小児看護学実習	2	90					2	90	
	母性看護学実習	2	90			2	90			
	精神看護学実習	2	90					2	90	
	看護の統合と実践実習	2	90					2	90	
小計		66	2235	18	570	29	945	19	720	
総計		104	3060	42	1140	36	1095	26	825	

教育課程進度表

科目		単位数	時間数	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	生活科学	1	15	↔					
	教育学	1	30		↔				
	情報科学	2	60	↔	↔				
	情報管理	1	15			↔			
	生命倫理	1	30		↔				
	心理学	1	30		↔				
	人間関係論	1	30	↔	↔				
	社会学	1	30		↔				
	英語Ⅰ	2	45	↔	↔				
	英語Ⅱ	2	30			↔			
	人間と文化活動	1	30	↔	↔				
専門基礎分野	小計	14	345						
	解剖生理学Ⅰ	2	45	↔	↔				
	解剖生理学Ⅱ	2	45	↔	↔				
	看護形態機能学	1	15	↔	↔				
	生化学	1	15		↔				
	微生物学	1	30	↔	↔				
	病理学(総論)	1	30		↔				
	看護の視点で病気をみるⅠ	1	30		↔	↔			
	看護の視点で病気をみるⅡ	1	30			↔			
	病理学Ⅰ	1	15					↔	↔
	病理学Ⅱ	1	30			↔	↔		
	病理学Ⅲ	1	30			↔	↔		
	病理学Ⅳ	1	15					↔	↔
	病理学Ⅴ	1	15					↔	↔
	薬理学Ⅰ	1	15		↔				
	薬理学Ⅱ	1	15			↔			
	栄養学	1	15	↔					
	環境学	1	15	↔					
	公衆衛生学	1	15					↔	↔
	社会保障	2	30					↔	↔
	関係法規Ⅰ	1	15	↔				↔	↔
	関係法規Ⅱ	1	15					↔	
	小計	24	480						
専門分野	看護学概論	1	30	↔	↔			↔	↔
	看護研究Ⅰ	1	30		↔				
	看護研究Ⅱ	1	30					↔	↔
	看護安全	1	15	↔					
	生活援助方法論	2	90	↔	↔				
	ヘルスアセスメント	1	45	↔	↔				
	看護過程方法論	1	30		↔				
	治療処置別看護Ⅰ	1	45		↔				
	治療処置別看護Ⅱ	1	45			↔	↔		
	リハビリテーション看護論	1	30		↔				
	地域・在宅看護概論	1	15		↔	↔			
	地域・在宅看護論Ⅰ	1	15			↔			
	地域・在宅看護論Ⅱ	2	45			↔	↔		
	地域・在宅看護論Ⅲ	1	30					↔	
	地域・在宅看護論Ⅳ	1	15						↔
	成人看護学概論	1	30		↔	↔			
	成人看護学Ⅰ	1	45		↔	↔			
	成人看護学Ⅱ	1	30		↔	↔			
	成人看護学Ⅲ	1	30		↔	↔			
	成人看護学Ⅳ	1	30			↔	↔		
	成人看護学Ⅴ	1	30			↔	↔		
	老年看護学概論	1	30		↔				
	老年看護学Ⅰ	2	30			↔	↔		
	老年看護学Ⅱ	1	30			↔	↔		
	小児看護学概論	2	45		↔	↔	↔		
	小児看護学Ⅰ	1	30			↔	↔		
	小児看護学Ⅱ	1	30			↔	↔		
	母性看護学概論	1	30		↔				
	母性看護学Ⅰ	1	15			↔	↔		
	母性看護学Ⅱ	2	60			↔	↔		
	精神看護学概論	1	15			↔	↔		
	精神看護学Ⅰ	2	45			↔	↔		
	精神看護学Ⅱ	1	30					↔	↔
	看護管理	1	15					↔	↔
	看護倫理	1	30					↔	↔
	医療安全Ⅰ	1	30			↔			
	医療安全Ⅱ	1	30					↔	↔
臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習	1	45		↔		↔		
	基礎看護学Ⅱ実習	2	90				↔		
	地域・在宅看護論実習	2	90					↔	↔
	成人看護学実習	2	90				↔		
	経過別看護Ⅰ実習	2	90					↔	↔
	経過別看護Ⅱ実習	2	90					↔	↔
	老年看護学Ⅰ実習	2	90				↔		
	老年看護学Ⅱ実習	2	90				↔		
	小児看護学実習	2	90					↔	↔
	母性看護学実習	2	90				↔		
	精神看護学実習	2	90					↔	↔
	看護の統合と実践実習	2	90					↔	↔
	小計	66	2235						
総計		104	3060						

2025年度生 68回生 筆記試験計画							2025.3			
	科目	単位 (総時間)	講義 時間	試験 回数	講 師	詳細科目名	点数枠	試験(評価)		
								1年	2年	3年
基礎分野	生活科学	1(15)	14	1	出口 博之		100	○		
	教育学	1(30)	30	1	下地 貴樹		100	○		
	情報科学	2(60)	60	1	黒坂 知絵		100	○		
	情報管理	1(15)	15	1	黒坂・小林		100		○	
	生命倫理	1(30)	30	1	吉原・村上		100	○		
	心理学	1(30)	30	1	皆元 司		100	○		
	人間関係論	1(30)	30	1	古野 薫		100	○		
	社会学	1(30)	30	1	飯井 俊文		100	○		
	英語 I	2(45)	44	2	安丸 雅子	英語 I ー1 英語 I ー2	100 100	○ ○		
	英語 II	2(30)	28	2	安丸 雅子	英語 II	100		○	
	人間と文化活動	1(30)	12	1	植田 佐世子		100	○		
			6	1	荒木 正見		100	○		
			12	1	尾中 美穂		100	○		
専門基礎分野	解剖生理学 I	2(45)	45	2	片岡 真司	解剖生理学 I ー1 解剖生理学 I ー2	100 100	○ ○		
	解剖生理学 II	2(45)	10	1	柳田 太平	解剖生理学 II	100	○		
			14	1	大崎 正登	解剖生理学 II	100	○		
			20	1	片岡 真司	解剖生理学 II	100	○		
	看護形態機能学	1(15)	15	1	宮川・古田		100	○		
	生化学	1(15)	15	1	山内 豊和		100	○		
	微生物学	1(30)	30	1	吉岡 香絵		100	○		
	病理学(総論)	1(30)	30	1	下釜 達朗		100	○		
	看護の視点で病気をみる I	1(30)	8	1	永野 薫	循環機能障害の看護	100	○		
			10	1	堺 優子	運動機能障害の看護		○		
			8	1	梅木 恵利	呼吸機能障害の看護		○		
			2	1	鳥取 和代	内分泌・栄養代謝機能障害看護		○		
			2	1	豊永 真理子	腎機能障害の看護		○		
	看護の視点で病気をみる II	1(30)	8	1	梅木 恵利	感覚器機能障害の看護	100		○	
			6	1	工藤 加奈子	血液・造血管機能障害の看護			○	
			8	1	工藤 加奈子	消化機能障害の看護			○	
			4	1	櫻木・岩松	脳神経障害の看護			○	
			4	1	鶴留 文代	排尿・排便機能障害の看護			○	
	病理学 I	1(15)	8	1	石川 幹真	外科的治療の基礎 消化器および腹部 頭部および頸部 肺および胸部 小児外科	100			○
			4	1	中原 博正	女性生殖器疾患の外科				○
			2	1	竹中 伊知郎	麻酔法について				○
			10	1	鈴木 邦裕	呼吸器疾患			○	
	病理学 II	1(30)	10	1	古賀 徳之	循環器疾患	100		○	
			6	1	土橋 卓也	高血圧	100		○	
			4	1	中村 滋郎	消化器疾患	100		○	
			10	1	末永 賢也	運動器疾患	100		○	
	病理学 III	1(30)	4	1	柳田 太平	腎疾患	100		○	
			8	1	中村宇天	内分泌・代謝疾患	100		○	
			4	1	横山 翌香	アレルギー	100		○	
			4	1	向坂 新蔵	眼科疾患	100		○	
	病理学 IV	1(15)	6	1	荒川 修治	神経・筋疾患	100			○
			6	1	山口 慎也	脳外科疾患	100			○
			2	1	梅野 好啓	耳鼻咽喉	100			○
	病理学 V	1(15)	8	1	大穂 有恒	肝・血液疾患	100			○
			6	1	尾畑 弘史	泌尿器疾患	100			○
	薬理学 I	1(15)	14	1	後藤 渉	薬理学 I	100	○		
	薬理学 II	1(15)	14	1	後藤 渉	薬理学 II	100		○	
	栄養学	1(15)	14	1	中岡 寛		100	○		
	環境学	1(15)	14	1	嵐谷 奎一		100	○		
	公衆衛生学	1(15)	14	1	中西 昌嗣		100			○
	社会保障	2(30)	14	1	藤岡 良幸	社会保障-1	100			○
	関係法規 I	1(15)	14	1	櫻庭 総	関係法規 I	100	○		
	関係法規 II	1(15)	14	1	櫻庭 総	関係法規 II	100			○
基礎看護学	看護学概論	1(30)	30	1	芹野 恭子		100	○		
	看護研究 I	1(30)	30	1	永野・黒坂		100	○		
	看護研究 II	1(30)	30	1	藤田 直子		100			○
	看護安全	1(15)	14	1	兼川 五月		100	○		
	生活援助方法論	2(90)	60	3	兼川・小倉・工藤	環境(40)・休息活動(30)・姿勢と移動(30)	100	○		
			1	1	堺 優子	清潔	100	○		
			16	1	小倉 直美	排泄	100	○		
			14	1	永野 薫	食事	100	○		
	ヘルスアセスメント	1(45)	12	1	古田 小雪	フィジカルアセスメント	100	○		
			18	1	梅木 恵利	フィジカルアセスメント(各論)	100	○		
	看護過程方法論	1(30)	14	1	古田 小雪	コミュニケーション	100	○		
			30	1	兼川 五月		100	○		
	治療処置別看護 I	1(45)	14	1	古田 小雪	薬物療法時の看護	100	○		
			10	1	中村 まい	輸液療法時の看護	100	○		
			10	1	山田 三千穂	創傷管理	100	○		
			10	1	木原 舞	酸素療法	100	○		
	治療処置別看護 II	1(45)	10	1	山口・山内	ME機器・麻酔	100		○	
			10	1	堺 優子	放射線・化学療法	100		○	
			12	1	永野 薫	診療・検査時の看護	100		○	
			12	1	相原 美加	臨床検査	100		○	
	リハビリテーション看護論	1(30)	30	1	島添 裕史他		100	○		
地域在宅看護論	地域・在宅看護概論	1(15)	14	1	柳田・高松・丸尾		100	○		
	地域・在宅看護論 I	1(15)	15	1	柳田 美香		100		○	
	地域・在宅看護論 II	2(45)	44	2	柳田・小倉		100		○	
	地域・在宅看護論 III	1(30)	30	1	柳田・三輪		100			○
	地域・在宅看護論 IV	1(15)	15	1	柳田 美香		100			○
成人看護学	成人看護学概論	1(30)	30	1	梅木 恵利		100	○		
	成人看護学 I	1(45)	14	1	山口・中村・龍田	救急	100		○	
			30	1	兼川 五月	周手術期	100		○	
	成人看護学 II	1(30)	10	1	梅木 恵利	呼吸機能障害の看護	100	○		
			10	1	鳥取 和代	内分泌・栄養代謝機能障害看護	100	○		
			10	1	豊永 真理子	腎機能障害の看護	100	○		
	成人看護学 III	1(30)	20	1	永野 薫	循環機能障害の看護	100	○		
			10	1	杉山・堺	運動機能障害の看護	100	○		
			16	1	櫻木・岩松	脳神経障害の看護	100		○	
	成人看護学 IV	1(30)	10	1	鶴留 文代	排尿・排便機能障害の看護	100		○	
			4	1	梅木 恵利	感覚器機能障害の看護	100		○	
			14	1	首藤・小倉	終末期・がん看護	100		○	
	成人看護学 V	1(30)	12	1	工藤 加奈子	消化機能障害の看護	100		○	
			4	1	工藤 加奈子	血液・造血管機能障害の看護	100		○	
			20	1	堺 優子		100	○		
老年	老年看護学概論	1(30)	10	1	佐土島・大西		100	○		
	老年看護学 I	2(30)	30	1	宮川 智子		100		○	
	老年看護学 II	1(30)	30	1	宮川・内村・堺		100		○	
小児	小児看護学概論	2(45)	44	2	藤田・橋本		100	○		
	小児看護学 I	1(30)	16	1	藤田 直子		100		○	
			14	1	藤田 直子		100		○	
母性	小児看護学 II	1(30)	30	1	魚住 友彦		100		○	
	母性看護学概論	1(30)	14	1	福田 詩子		100	○		
			16	1	前川 礼子		100	○		
	母性看護学 I	1(15)	10	1	福田 詩子		100		○	
			4	1	後藤 元子		100		○	
精神	母性看護学 II	2(60)	44	1	廣渡・曾川		100		○	
			16	1	福田 詩子		100		○	
	精神看護学概論	1(15)	14	1	中本 亮		100		○	
	精神看護学 I	2(45)	14	1	原賀 憲亮	疾患・治療・検査	100		○	
			14	1	桑野 浩明	精神療法の実際	100		○	
看護の統合と実践	精神看護学 II	1(30)	16	1	工藤・古田	看護	100		○	
	看護管理	1(15)	30	1	工藤・古田		100			○
			6	1	倉地・龍田		100			○
	看護倫理	1(30)	8	1	柿坂 静香		100			○
			12	1	荒木 正見		100			○
	医療安全 I	1(30)	18	1	芹野 恭子		100			○
			30	1	宮川 智子他		100			○
	医療安全 II	1(30)	30	2	小倉 直美他	医療安全 II-1 医療安全 II-2	100 100			○ ○

*詳細はシラバス参照

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	生活科学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	出口 博之	1 単位	講義	1 年
実務経験	工学博士 大学名誉教授	15 時間		前 期
授業の概要	生活の中における物理・化学の基本的知識を学ぶ。			
授業の到達目標	看護技術の原理に活用し理解することが出来る。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
	1. 身体／身体ケアに関する物理学			
1	①力について	講義		出口
2	②単位について ③トルクの知識	講義		
3	④安定・不安定	講義		
	2. 検査・治療・処置に関する物理学			
4	①圧力の基礎知識 ②大気圧について	講義		
5	③血圧に関する知識	講義		
6	④酸素ポンプについて	講義		
7	⑤酸／アルカリとphの関係 ⑥濃度・溶解度について	講義		
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	各単元終了後に確認のテスト及び終講時に筆記試験を行なう。			
テキスト	平田雅子:完全版ベットサイドを科学する(学研)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ				
備考				

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	教育学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	下地 貴樹	1 単位	講義・演習	1 年
実務経験	大学講師	30 時間		後 期
授業の概要	「教育とはどのように行われるべきか」というテーマで授業を展開することが本筋となる。 この授業では、「教育とは何か」「なぜ教育するのか」「教育と人間関係」などを幅広く扱い、人間形成について考えていく。その際に、グループワークや全体討議などを通して現代教育の課題の一つである思考・表現・判断に関して捉え、実践的態度の形成を図る。			
授業の到達目標	・授業を構成する要素として、教師・生徒・教材が存在し、その背景について考えることが出来る。 ・教育とはどのように行われるべきかを、自身の体験や講義を通して、考えることが出来る ・発表やグループワークを通して、「伝える」ことへの工夫について考えるとともに、実践することが出来る。 ・レポート課題やグループワークの中で論理的思考や討議法・メモ技術などを身に付けることができる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	オリエンテーション 自己紹介・他己紹介についてのワークショップ	講義		下地
2	子どもについて:子どもの発達 教育はいつから始まるか			
3	学校について:学校とは何か 学歴社会の是非			
4	教師について:教師という存在 良い教師・悪い教師とは			
5	児童生徒について:いつまで子どもなのか 良い生徒・悪い生徒とは			
6	「大人」と「子ども」という視点から見る教育場面			
7	「教師」と「生徒」という視点から見る教育場面:子どもを教育する			
8	教材について 素材を教材化する 教育効果を高めるために			
9	教材を作る—生徒の視点・教師の視点をつなげる			
10	学力とは何か:ゆとり教育—詰め込み教育—脱ゆとり教育			
11	評価の意味について 評価の仕組み・公平な評価とは			
12	教育と環境:家庭背景と社会構造、学級内での問題について			
13	授業をつくる:授業はいかにして作られるのか・指導案作成			
14	授業をする:授業プレゼン・自分たちが望む授業			
15	総括:教育とは何か		講義	
終講試験	試験		試験	下地
学習課題 (事前・事後)	事前学習課題として、発表用の資料を作成してもらう。そのための資料を随時提供する。 事後学習として、ミニレポートを課す。			
成績評価の方法	グループ活動への参加:20%(司会・書記としての活動:10%/意見の提出・内容の発展:10%) グループ発表:30%(発表資料:15%・発表者の態度:10%・受講者の反応:5%) ミニレポート:10%(意見の論理性・わかりやすく書いてあるか) 終講試験:40%			
テキスト	テキスト・参考文献については特に指定はしない。			
* 参考文献等	教員が、随時紹介していく。			
学生へのメッセージ	グループワークが主になります。課題への取り組みや資料準備などを分担して行わなければ、大変な作業になりますので、連携を大切にしてください。また、わからないことや質問については遠慮せずに尋ねてください。			
備考				

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報科学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	黒坂 知絵	2 単位	講義・演習	1 年
実務経験	工学博士 大学講師	60 時間		前 期
授業の概要	膨大な情報を扱う必要のある医療従事者として、ICT (Information and Communication Technology) の基本概念や危険性を十分に理解し、効率よく理論的にデータを整理することは重要である。情報処理および統計学を通して、看護研究に応用できる基礎的理論を学習し、科学的思考力を高める。			
授業の到達目標	統計学では、公式をただ覚えるのではなく、多くの手法を理解して研究の解析ツールとして利用できるよう学習する。情報処理では、医療現場で活躍する上で必要最低限となるコンピュータやネットワークの基本を押さえ、演習を通じてMS-Officeの利用方法を習得する。また、看護研究Ⅰと連動して行い看護研究の実施方法や研究計画についても触れ、臨床現場の職場環境改善や問題解決を円滑に行えるよう、論理的思考に基づいて、コンピュータを利用して統計解析が行えるようになることを目指す。			
授業計画 (全 30 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	パソコン操作の基本 オリエンテーション	演習	カリキュラム	
2	1 統計学とは何か、保健統計	講義	黒坂	
3	(1) データの基本概念、計算や公式の練習(数学の復習)	講義		
4	(2) データの収集方法、データの整理	講義		
5	(3) 代表値	講義		
6	(4) 散布度	講義		
7	(5) 相関係数	講義		
8	(6) 確率分布	講義		
9	(7) 検定、推定とは	講義		
10	(8) 平均値の検定1	講義		
11	(9) 平均値の検定2	講義		
12	(10) 分散の検定	講義		
13	(11) 相関係数、比率の検定	講義		
14	(12) χ^2 検定(適合度の検定)	講義		
15	(13) χ^2 検定(独立性の検定)	講義		黒坂
16～30	次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報科学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	黒坂 知絵	2 単位 60 時間	講義・演習	1 年 前 期
実務経験	工学博士 大学講師			
授業の概要	前ページに記載			
授業の到達目標	前ページに記載			
授業計画 (全 30 回)	授業内容	授業方法	担当	
16	(14) その他、ノンパラメトリック検定	講義	黒坂	
17	2 パソコンの基本操作	講義・演習		
18	(1) 医療情報概論	講義・演習		
19	(2) MS Wordの基本操作	講義・演習		
20	(3) 文書の作成	講義・演習		
21	(4) 図表の扱い方	講義・演習		
22	(5) MS PowerPointの基本操作	講義・演習		
23	(6) 効果的なプレゼン方法	講義・演習		
24	(7) MS Excelの基本操作	講義・演習		
25	(8) 数式、関数の使い方	講義・演習		
26	(9) グラフの描き方	講義・演習		
27	(10) データベースの使い方	講義・演習		
28	(11) まとめ、論文の書き方	講義・演習		
29	(12) 検定練習	講義・演習		
30	(13) 検定練習	講義・演習		
試験	終講試験	試験	黒坂	
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験(100点)			
テキスト	看護師・保健師をめざすひとのやさしい統計処理－保健・医療データの活用－(実教出版)			
* 参考文献等	他、適宜紹介			
学生へのメッセージ	統計学は難しい印象を受けると思いますが、できるだけ楽しく学習できるよう工夫しています。 コンピュータの基本操作、データ加工や簡単な検定処理も学習しますので、意欲的に取り組んでください。 看護研究Ⅰ(グループでの看護研究)の授業と連動して行いますので、研究に関する相談を受けます。			
備考	コンピュータ演習のファイル保存に使用するため、USBをひとり1個学校で購入し準備します。 円滑に演習が行えるよう現時点でのパソコン操作について事前に調査します。 統計学の講義では、毎回、電卓(ルートの計算ができるもの)を持参してください。			

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	情報管理	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	黒坂 知絵(工学博士・大学講師) 小林 誠(病院勤務情報システム課係長)	1 単位 15 時間	講義・演習	2 年 前 期
授業の概要	ICT化を図る上で基本となる情報ネットワークの活用と情報収集・情報発信の方法を学ぶ。電子カルテを利用するために必要な基本的な操作技術、安全管理と個人情報保護について実践を学ぶ。			
授業の到達目標	看護学生として「情報とはなにか」を知り、その「いかし方」と「まもり方」の両方を学び、個人情報保護の視点で臨地実習で活用できる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	情報と情報社会	講義	黒坂	
	1)情報とは 2)情報社会とは 3)インターネットのしくみとネットワーク			
2	情報の収集・発信方法	講義		
	1)情報通信技術(ICT)とその活用			
	2)コンピューターリテラシーとセキュリティ			
	①コンピューターに関する基礎知識②インターネットに関する基礎知識と注意点			
3	看護と情報	講義		
	1)情報社会と看護 2)地域医療福祉における情報システム			
	3)地域・在宅看護におけるICTの活用		↓	
4	医療における情報システム	講義	小林	
	1)医療情報の種類、標準化と電子化		↓	
	2)病院情報システムとは 3)病院情報システムと記載の仕方			
5 6	情報倫理と個人情報保護	講義		
	1)情報倫理とは 2)診療情報システム 3)個人情報の保護		↓	
7	電子カルテの取り扱い	講義・演習	小林	
評価	課題レポート		↓	
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	課題レポートで評価			
テキスト * 参考文献等	系統看護学講座 看護情報学 医学書院			
学生へのメッセージ	とても便利で皆さんの身近にあるインターネットですが、医療・看護の中で安全に正しく情報活用の基本とルールについて学びます。			
備考				

基礎分野（科学的思考の基盤）

授業科目	生命倫理	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	吉原 雅子(大学准教授)・村上善信	1 単位 30 時間	講義・ワーク	1 年 後 期
授業の概要	人間の尊厳を基盤にした生命倫理について考え、医療に携わるものとしての価値観を形成する基礎を学ぶ。			
授業の到達目標	生命倫理で扱う基本的な事柄や用語について理解する。その上で、現代の医療(特に終末期医療、人工妊娠中絶、臓器移植等)が抱える倫理的問題について自分なりに考え、議論や論述ができる力を身につける。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	1. 生命倫理とは何か	講義		吉原
2	2. SOLとQOL、パターナリズムとインフォームド・コンセント			↓
3	3. ホスピスと緩和ケア			
4	4. 尊厳死と安楽死			村上
5	5. 死の自己決定権			↓
6	6. 安楽死制度の是非をめぐる			
7	7. 安楽死 まとめ			吉原
8	8. 生殖補助医療			
9	9. 人工妊娠中絶			
10	10. いのちの選別の問題			
11	11. 選択的中絶の是非をめぐる議論、生殖医療 まとめ			
12	12. 脳死と臓器移植			
13	13. 臓器移植の問題点と制度の選択			
14	14. 臓器移植 まとめ			
15	15. 生きる意味について			
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)	必要があれば、適宜指示する。			
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等				
学生へのメッセージ	それぞれの問題について、解決を急がず、自分なりにじっくりと考えてみてください。			
備考	適宜プリントを配布する。			

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	心理学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	皆元 司	1 単位	講義・ワーク	1 年
実務経験	臨床心理士	30 時間		後 期
授業の概要	発達と心理、行動と心理、感覚・知覚と心理について学び、看護の対象である人間を理解する。			
授業の到達目標	自分を理解し、他者を理解するために必要な心理学の知識を身につける。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
	1. 人間理解と心理学の関係	講義・ワーク		皆元
	2. 発達段階と発達課題			
	3. アイデンティティ			
	4. 行動と欲求と動機づけ			
1～15	5. 葛藤とフラストレーション			
	7. 問題行動と行動療法			
	8. 感覚・知覚と心理的環境			
	9. 記憶と想起			
	10. ことばの認知とコミュニケーション			

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	人間関係論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	古野 薫	1 単位	講義・演習	1 年
実務経験	公認心理師 スクールカウンセラー	30 時間		前 期
授業の概要	自分を知り他人を理解し、人間関係を築くための基本を学ぶ。カウンセリングの基礎を学ぶ。			
授業の到達目標	看護実践を行なう際に必要な人間関係を形成する基礎知識について理解できる。コミュニケーション技術やカウンセリングの理論及びその技法について理解できる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
		講義		古野
	1.人間関係からの人間理解			
	1) 人間存在と人間関係			
	2) 社会相互作用と社会的役割			
	3) コミュニケーション			
1～15	4) 自己理解・他者理解			
	2. 心理臨床医からの人間関係			
	1) 人間関係の向上へのスキル			
	2) カウンセリングの基礎			
	3) カウンセリングと心理療法			
試験	終講試験	試験		古野
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト	なし 適宜資料配付する			
* 参考文献等	* 参考 バーバラニューマン他:生涯発達心理学(川島書店) 精神看護学(中央法規)			
学生へのメッセージ				
備考				

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	社会学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	阪井 俊文	1 単位 30 時間	講義	1 年
実務経験	大学非常勤講師			後 期
授業の概要	我々が生きる「現代社会」がどのような特徴を有しているのかを解説し、「社会的存在」としての人間について理解を深める。社会学の理論を基にして、現代の医療のあり方や、人々の健康に関わる問題について考察する。			
授業の到達目標	社会学的な視点を理解することで、常識にとらわれることなく、物事を多面的・客観的に捉える洞察力を身につける。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	社会学とは何か： 社会学を学ぶ意義	講義		阪井
2	現代社会の特徴(1)：「自由」と「自己責任」	講義		
3	現代社会の特徴(2)： 大きな物語の消滅	講義		
4	現代社会の特徴(3)： 消費社会化	講義		
5	現代社会とジェンダー	講義		
6	「家族」の変遷	講義		
7	社会階層と格差	講義		
8	高齢化とソーシャルワーク	講義		
9	医療社会学	講義		
10	現代社会と医療	講義		
11	現代社会と健康	講義		
12	医療・福祉従事者の現状と課題	講義		
13	グローバル化と医療	講義		
14	「死」の社会学	講義		
15	まとめとレポート課題の説明	講義		
終講試験				
学習課題 (事前・事後)	概ねテキストに沿って進めるので、予めテキストに目を通しておいください。			
成績評価の方法	講義内に実施する小レポートと終講レポートで評価する。			
テキスト	阪井俊文・濱野健・須藤廣(編)『増補改訂版 看護と介護のための社会学』明石書店			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ	社会学は高校の「社会科」とは全く別の学問です。「常識を疑う」という思考に戸惑うかもしれませんが、視野を広げることの面白さを感じてください。			
備考				

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	英語 I	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	安丸 雅子	2 単位 45 時間	講義・演習	1 年 前～後 期
実務経験	大学非常勤講師			
授業の概要	基礎的な医療英単語と実践的な英会話を学びます。			
授業の到達目標	医療英単語を習得する過程で、自分なりの暗記方法を確立し、それぞれが責任感を持って課題に取り組み、仲間と協力し助け合うことを学びます。また、国際社会に対応し得る英語表現の能力を身に付け、現場で最低限のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
1	講義概要、実力テスト			安丸
2	自己紹介、会話表現1「受付」、Lesson1	講義と演習、小テスト		
3	Lesson2体の部位	講義と演習		
4	体の部位の確認、骨格	講義と演習、小テスト		
5	骨格の確認、臓器	講義と演習、小テスト		
6	臓器の確認、心臓と脳	講義と演習		
7	Lesson2・3症状	講義と演習、小テスト		
8	Lesson3 診療科	講義と演習、小テスト		
9	Lesson4 院内の案内	講義と演習、中間試験告知		
10	第2講～第9講の復習	講義と演習		
11	中間面接試験			
試験	中間筆記試験			
12～22	次ページ記載			↓
学習課題 (事前・事後)	次ページ記載			
成績評価の方法	次ページ記載			
テキスト * 参考文献等	次ページ記載			
学生へのメッセージ	次ページ記載			
備考	次ページ記載			

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	英語 I	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	安丸 雅子	2 単位 45 時間	講義・演習	1 年
実務経験	大学非常勤講師			前～後 期
授業の概要	前ページ記載			
授業の到達目標	前ページ記載			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
12	Lesson6 様々な病気	講義と演習、小テスト		安丸
13	Lesson6 家系	講義と演習		
14	症状と病気の復習	講義と演習、小テスト		
15	Lesson5 問診、会話表現2「健康診断①」	講義と演習、小テスト		
16	Lesson6 問診、会話表現3「健康診断②」	講義と演習		
17	Lesson8 検査 会話表現2・3	講義と演習、小テスト		
18	Lesson14 検査、会話表現4「検査指示①」	講義と演習、小テスト		
19	Lesson10 薬品、会話表現5「検査指示②」	講義と演習		
20	会話表現6「薬の指示」	講義と演習、小テスト、期末試験告知		
21	第13講～第21講の復習	講義と演習		
22	期末面接試験			
試験	期末筆記試験			↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	学科試験(70点)＋面接試験(20点)＋平常点(10点)の100点満点で成績を評価します。まず、中間面接試験と中間筆記試験を実施し、100点満点で中間の点数を出します。次に期末面接試験と期末筆記試験を実施し、100点満点で期末の点数を出します。そしてそれらの中間の点数と期末の点数の平均点を割り出し、その平均点を英語 I の最終評価とします。			
テキスト * 参考文献等	English for Nurses「看護系学生のための実践英語」(山中マーガレット他著 朝日出版)			
学生へのメッセージ	医療英語は、みなさんが中高で学んできた読み書き重視の受験英語とはかなり異なりますので、今までの英語の得意・不得意はほとんど関係ありません。全員が初心者として一斉にスタートを切ることになりますので、新たな外国語を学ぶつもりで、努力を怠らずにコツコツ頑張りましょう。			
備考				

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	英語Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	安丸 雅子	2 単位	講義・演習	2 年
実務経験	大学非常勤講師	30 時間		前～後 期
授業の概要	1年生の内容を総復習しつつ、さらに深い知識を身に付けます。			
授業の到達目標	医療英単語を習得する過程で、自分なりの暗記方法を確立し、それぞれが責任感を持って課題に取り組み、仲間と協力し助け合うことを学びます。また、国際社会に対応し得る英語表現の能力を身に付け、現場で最低限のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	受付と登録: 会話表現1、身体・骨格の復習	講義と演習		安丸
2	脳・心臓の復習	講義と演習、小テスト		
3	臓器の復習	講義と演習、小テスト		
4	★手術: 新Unit4、旧 Lesson11	講義と演習		
5	★手術、会話表現7	講義と演習、小テスト		
6	健康診断: 会話表現2・3	講義と演習、小テスト		
7	★スタッフ: 新 Unit5・6、病気の復習	講義と演習、小テスト		
8	★スタッフ: 新 Unit7、病気の復習	講義と演習、小テスト		
9	病気の復習、会話表現4	講義と演習、小テスト		
10	検査の復習、会話表現5	講義と演習		
11	★器具、携行・処置用品: 旧Lesson12	講義と演習、小テスト		
12	★器具、携行・処置用品: 新Unit12、	講義と演習、小テスト		
13	★器具、携行・処置用品: 新Unit13	講義と演習、試験告知		
14	単語 総復習カルタ	講義と演習		
15	面接試験			
試験	筆記試験			↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	学科試験(70点)＋面接試験(20点)＋平常点(10点)の100点満点で成績を評価します。			
テキスト * 参考文献等	First Aid ! English for Nursing「看護英語への総合的アプローチ」(樋口晶彦著 金星堂)と、1年次に使用していたEnglish for Nurses「看護系学生のための実践英語」(山中マーガレット他著 朝日出版)。 ※1年次に配布した小テスト以外のプリント(臓器、症状、病名、会話表現例文1～6)も使用する。			
学生へのメッセージ	専門科目が難しくなり、実習も本格的になってきて大変になると思いますが、1年生で学習したことが無駄にならないように、総仕上げのつもりで取り組んでください。			
備考				

基礎分野（人間の生活・社会の理解）

授業科目	人間と文化活動	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	尾中 美穂（12時間）：体育（大学非常勤講師） 植田 佐世子（12時間）：音楽（大学非常勤講師） 荒木 正見（6時間）：描画（大学非常勤講師）	1 単位 30 時間	演習・実技	1 年 前～後 期
授業の概要	運動、スポーツに興味を持ち、生涯スポーツの実践につなげる 合唱を通して、他者と協調して自己表現することを学び協調性を高める 描画表現を体験し、自己を知る			
授業の到達目標	自分にフィットした身体運動の効果を体得し、身心ともに充実したライフスタイルを送ることができる 文化芸術活動を通して感性を高め、自己表現の方法を知る グループ活動・全体行動を通して、リーダーシップメンバーシップを身につける			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	オリエンテーション、レクリエーション	講堂	演習・実技	尾中
2	ドッチビー			
3	バレーボール			
4	バドミントン(ダブルス)			
5	交流会に向けての練習(種目別)			
6	レクリエーションスポーツ			
7	合唱①	講堂	演習・実技	植田
8	合唱②			
9	合唱③			
10	合唱④			
11	合唱⑤			
12	合唱⑥			
13	描画①	講堂	演習・実技	荒木
14	描画②			
15	描画③			
学習課題 (事前・事後)	なし			
成績評価の方法	体育 授業態度 80点 技能20点 音楽 授業参加度他 100点 描画 レポート 100点			
テキスト * 参考文献等	なし			
学生へのメッセージ	実技の授業であり、主体的に行動し活動してほしい。 心と身体は繋がっていることの実感し、表現力を身につけてほしい。			
備考	3人の講師の平均が最終評価点となる			

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	片岡 真司	2 単位 45 時間	講義	1 年 前 期
授業の概要	看護の対象である人間の生命の成り立ちをみつめるため、人体の構造や機能について学ぶ。			
授業の到達目標	人体の発生・構造・生命を保つために必要な機能を理解する。 正常な消化器・呼吸器・循環器の構造と機能を理解する。			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識			
1	人体の構造と機能について	講義		片岡
2	細胞と組織			
3	構造と機能からみた人体			
4	体液とホメオスタシス			
	第2章 栄養の消化と吸収（食べる）			
5	口・咽頭・食道の構造と機能			
6	胃・小腸・大腸の構造と機能			
7	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能			
8	消化と吸収 腹膜			
	第3章 呼吸と血液のはたらき（息をする）			
9	呼吸器の構造構造と機能			
10	呼吸運動と調節のメカニズム			
11	呼吸気量とガス交換			
12	血液			
試験	解剖生理学Ⅰ－1	試験		
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学 I	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	片岡 真司	2 単位	講義	1 年
実務教員	解剖学助教	45 時間		前 期
授業の概要	前ページと同じ			
授業の到達目標	前ページと同じ			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
	第4章 血液の循環とその調整			
13	心臓の構造と働き	講義		片岡
14	刺激伝導系と心電図			
15	血管の種類と分布 血管の構造 肺循環と体循環			
16	血液の循環の調節 リンパとリンパ管			
	第6章 内臓機能の調節			
17	自律神経による調節 内分泌系による調節			
18	ホルモンの分泌と作用・調節			
19	(下垂体・甲状腺と副甲状腺・膵臓・副腎・性腺)			
	第9章 外部環境からの防御			
20	皮膚の構造と機能			
21	生体の防御機構			
22	体温とその調節			
試験	試験(解剖生理学 I ー2)	試験		
学習課題 (事前・事後)	講師より適宜指示があります。			
成績評価の方法	解剖生理学 I ー1: 筆記試験(80点)+小テスト(10点)+課題(10点) 解剖生理学 I ー2: 筆記試験(80点)+小テスト(10点)+課題(10点)			
テキスト	解剖生理学(医学書院)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ	人間のからだのしくみには生命を維持するために必要な働きと自然に備わっている不思議な力があります。 疑問を残さず一つ一つ確実に学んでいきましょう。			
備考				

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	片岡 真司（20時間+解剖見学2時間）（歯科医師 解剖学助教） 柳田 太平（10時間）（腎臓内科医師） 大崎 正登（14時間）（脳神経内科医師）	2 単位 45 時間	講義・演習	1 年 前～後 期
授業の概要	看護の対象である人間の生命の成り立ちをみつめるため、人体の構造や機能について学ぶ。			
授業の到達目標	人体の骨・筋・神経系の構造を理解する。 情報の伝達と経路および外部環境の防御および体液の調整について理解する。			
授業計画 （全 30 回）	授業内容	授業方法	担当	
	第7章 身体の支持と運動			
1	人体の骨格	講義	片岡	
2	骨の連結	講義	片岡	
3	骨格筋 体幹の骨格と筋	講義	片岡	
4	上肢・下肢の骨格と筋	講義	片岡	
5	頭頸部の骨格と筋	講義	片岡	
6	筋の収縮	講義	片岡	
	第10章 生殖・発生と老化のしくみ			
7	男性生殖器 女性生殖器 性周期	講義	片岡	
8	受精と妊娠・分娩 胎児の血液循環	講義	片岡	
9	成長と老化	講義	片岡	
10	第11章 体表からみた人体の構造	講義	片岡	
試験	終講試験	試験	片岡	
学習課題 （事前・事後）	講師より適宜指示があります。			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	解剖生理学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	片岡 真司（20時間+解剖見学2時間）（解剖学助教） 柳田 太平（10時間）（腎臓内科医師） 大崎 正登（14時間）（脳神経内科医師）	2 単位 45 時間	講義・演習	1 年 前～後 期
授業の概要	前ページに記載			
授業の到達目標	前ページに記載			
授業計画 （全 30 回）	授業内容	授業方法	担当	
1	1. 排泄路	講義	柳田	
2	2. 尿細管の構造と機能	講義	↓	
3	3. 尿の生成・体液	講義		
4	4.Kの異常と酸・塩基平衡	講義		
5	5. 尿の異常	講義		
試験	終講試験	試験	柳田	
1	1. 神経系の構造と機能	講義	大崎	
2	2. 脳と脊髄	講義	↓	
3	3. 脳神経	講義		
4	4. 脊髄神経伝導路	講義		
5	5. 脳の高次機能	講義		
6	6. 眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚	講義	↓	
7	7. 味覚と嗅覚 疼痛	講義		
試験	終講試験	試験	大崎	
12月頃	解剖見学	解剖見学	片岡	
学習課題 （事前・事後）	前ページに記載			
成績評価の方法	片岡先生：筆記試験(80点)+小テスト(10点)+課題(10点) 柳田先生・大崎先生：筆記試験 3人の講師の平均が最終評価点となる			
テキスト	解剖生理学(医学書院)			
* 参考文献等	看護につなげる 形態機能学 メヂカルフレンド社			
学生へのメッセージ	人間のからだの仕組みを学ぶ基礎となる科目です。 正常と異常は連続しており、正常がわかれば異常がわかり、異常がわかれば正常がわかるものです。 覚えることが多いですが、しっかり学習していきましょう。			
備考	* 外部の施設で解剖の見学を行なう。日程や詳細は後日指示する。			

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	看護形態機能学～いのちを支えるからだの仕組み～	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	宮川 智子(看護師・教員)・古田 小雪(看護師・教員)	1 単位 15 時間	講義・演習	1 年 前期 後 期
授業の概要	解剖生理学で学んだ知識を基本として、人体のもつ内部恒常性の維持、調整機能の理解を深め、疾患及び病態生理の理解に関連づける。			
授業の到達目標	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を理解して、呼吸する、食物を摂取する、排泄する、眠る(休息)という日常生活と生命維持の関係を恒常性維持の視点から見直し、人間のからだの仕組みの正常を学ぶ。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	看護形態機能学の理解と活用	講義		宮川
2	病態生理用紙の書き方	講義		↓
3	生活行動とからだ	講義		
4	内部環境と恒常性の維持	講義		古田
5	酸素と二酸化炭素の恒常性	講義		↓
6	血糖値と体温の恒常性	講義		
7	看護形態機能学(まとめ)	講義		宮川
評価	からだのしくみと看護	レポート課題		↓
学習課題 (事前・事後)	解剖生理学の復習を行い、授業後の課題に取り組んで下さい。			
成績評価の方法	授業態度と課題で評価			
テキスト	看護につなげる 形態機能学 メヂカルフレンド社			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ	人間のからだのしくみは本当によくできています。今生きてる自分のからだがどうなっているのか理解することで看護につながります。			
備考				

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	生化学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	山内 豊和	1 単位	講義	1 年
実務経験	薬剤師 病院薬剤部勤務	15 時間		後 期
授業の概要	生物を構成・生産する物質の構造と機能や代謝について学ぶ。			
授業の到達目標	生物を構成・生産する物質の構造と機能や代謝について学び、生体がどのような化合物で成り立っていて生体の恒常性を保っているか理解する。さらに診断・治療への関連について理解する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	生体成分のあらまし 代謝反応のあらまし	講義		山内
2	↓			
3	消化・異化反応のあらまし			
4	生体成分(糖質) 糖・コレステロール代謝			
5	糖質代謝			
6	脂質代謝 その1			
7	脂質代謝 その2 蛋白質代謝			
終講試験	試験	試験		山内
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 生化学(医学書院) 他、適宜紹介する			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ				
備考	講義を中心に行ない視聴覚教材を適宜使用する。			

専門基礎分野（人体の構造と機能）

授業科目	微生物学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	吉岡 香絵	1 単位	講義	1 年
実務経験	歯科医師 大学助教	30 時間		前 期
授業の概要	微生物とはどのようなものか、どのような病気をおこすのか、またそれに対してどのように対処すべきかを学ぶ。			
授業の到達目標	微生物学の特徴と生体に及ぼす影響及び宿主の免疫反応を理解し、微生物感染症やその予防・治療の理解に役立てる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1・2	微生物の基礎 細菌・真菌・原虫の総論	講義		吉岡
3・4	ウイルス総論 感染メカニズム 免疫総論	講義		
5・6	免疫各論	講義		
7・8	免疫(寛容・粘膜) 感染経路について	講義		
9・10	滅菌・消毒 化学療法薬	講義		
11・12	細菌感染症 真菌・ウイルス感染症	講義		
13・14	ウイルス感染症(HIV・肝炎ウイルス)	講義		
15	微生物学総論まとめ	講義		
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 微生物学(医学書院)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ				
備考	講義を中心に行ない視聴覚教材を適宜使用する。			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学(総論)	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	下釜 達朗	1 単位	講義	1 年
実務経験	医師 日本病理学会認定病理医 病理学検査	30 時間		後 期
授業の概要	病理学とは生体に起こる病的な状態(病気、疾病)の本態を追求する学問であり、病気の原因、発生機序、経過、そして転帰を一本の軸とし、関連する事項をも含めて論ぜられる。本講義においては病気を総論的視点から一般的通則として把握することを主眼とし、病理学総論で学ぶ疾病概念の組み立て方は、各臓器の病理学各論を学ぶための基礎となる。			
授業の到達目標	病因と病変の特徴を生理学、生化学、解剖学の知識と関連つけて理解し、病因が身体に及ぼす形態と機能の変化について理解することができる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	病理学で学ぶこと:病理学概論、病因論について概説できる。	講義		下釜
2	細胞・組織の障害と修復①②:細胞の障害、組織の障害、萎縮、変性、壊死、アポトーシスを説明できる。			
3				
4	細胞・組織の障害と修復③:肥大、増生、化生、再生、修復、創傷治癒、器質化を説明できる。			
5	循環障害①:虚血、充血、うっ血を説明できる。			
6	循環障害②:出血、浮腫、ショックを説明できる。			
7	循環障害③:血栓症、塞栓症、梗塞を説明できる。			
8	循環障害④:側副循環、DIC、高血圧を説明できる。			
9	炎症①②:炎症の定義、発生機序、炎症に関与する細胞、炎症の種類と病理組織学的特徴及び経時変化を説明できる。			
10				
11	免疫①:免疫の定義、免疫に関する細胞、液性免疫、細胞性免疫を説明できる。			
12	免疫②:アレルギーの定義と分類、免疫不全症、自己免疫疾患、移植と拒絶反応を説明できる。			
13	代謝障害:脂質代謝障害(肥満・動脈硬化症・脂肪肝・脂質異常症)、タンパク質代謝障害(アミロイドーシス)、糖質代謝障害(糖尿病、糖原病)、その他の代謝障害(痛風、黄疸、結石)について概説できる。			
14	先天異常と遺伝子疾患:先天異常の分類、遺伝子異常と疾患について概説できる。			
15	腫瘍:腫瘍の定義、病因、腫瘍の異型性と組織学的分化度、良性腫瘍と悪性腫瘍の異同、腫瘍の増殖、浸潤及び転移を説明できる。	講義		
試験	終講試験	試験		下釜
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験(100点)			
テキスト * 参考文献等	解剖生理学(医学書院) 専門基礎分野 病理学(医学書院)			
学生へのメッセージ	目標とする国家試験、頑張れば、必ず合格できます。夢のために、一緒に勉強していきましょう。			
備考				

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	看護の視点で病気をみるⅠ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	永野 薫(看護師・教員) (8時間)循環機能障害 堺 優子(看護師・教員) (10時間)運動機能障害 梅木 恵利(看護師・教員) (8時間)呼吸機能障害 豊永 真理子(看護師) (2時間)腎機能障害 鳥取 和代(糖尿病看護認定看護師) (2時間)内分泌・代謝機	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要				
授業の到達目標	解剖生理学で学んだ知識を基本として、その病気を形成する細胞や組織の壊れ方、異常事態への陥り方(症状)のメカニズムを理解する。 また症状が人体に及ぼす影響と人体を守ろうとする回復システムを関連づけることができる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	循環機能障害患者の理解・循環器の構造と機能・循環機能障害	講義・演習	永野	
2	動悸のメカニズム			
3	胸痛のメカニズム			
4	呼吸困難・浮腫のメカニズム			
5	オリエンテーション・大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術)	講義	堺	
6	大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折のグループワーク	グループワーク		
7	①病態生理用紙の作成			
8	②病態に伴う検査・治療・看護についてグループで学習する。			
9	③グループごとに発表資料とパワーポイントを作成して発表会の準備をする。			
10	呼吸機能障害患者の理解・呼吸器の構造と機能・呼吸機能障害	講義・演習	梅木	
11	呼吸異常のメカニズム			
12	呼吸困難のメカニズム			
13	咳嗽・喀痰・その他の症状のメカニズム			
14	腎機能障害患者の理解・腎臓の構造と機能・腎臓機能障害	講義	豊永	
15	内分泌機能障害患者の理解・内分泌の調節機能・内分泌機能障害	講義	鳥取	
学習課題 (事前・事後)	病態生理用紙作成			
成績評価の方法	【循環機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(心筋梗塞・心不全) 【運動機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(大腿骨骨幹部骨折・腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折)・授業態度 【呼吸機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(慢性閉塞性肺疾患・肺炎)・授業態度 【腎機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(腎不全) 【内分泌機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(糖尿病)			
テキスト	専門Ⅱ 循環器 医学書院	専門Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学 医学書院		
* 参考文献等	専門Ⅱ 運動器 医学書院	専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院		
学生へのメッセージ	呼吸・循環・代謝・運動は人間が生きる上でとても大切な働きです。何らかの原因によって機能が障害されるメカニズムを理解して、症状や疾患の理解を深め病理学、成人看護学看護に繋げていきましょう。			
備考				

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	看護の視点で病気をみるⅡ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利(看護師・教員)(8時間)感覚器障害 工藤 加奈子(看護師・教員)(6時間)血液・造血機能障害 工藤 加奈子(8時間)消化機能障害 櫻木 ゆり(摂食嚥下認定看護師)・岩松 香菜子(摂食嚥下認定看護師)(4時間)脳神経障害 鶴留 文代(皮膚排泄認定看護師)(4時間) 排尿・排泄障害	1単位 30時間	講義・演習	2年 前～後期
授業の概要	KOMIケア理論の疾病論に基づき、からだの仕組みと病気によって身体内部に何がおこっているか、症状や疾患の理解を深め、病理学、成人看護学に関連づける。			
授業の到達目標	解剖生理学で学んだ知識を基本として、その病気を形成する細胞や組織の壊れ方、異常事態への陥り方(症状)のメカニズムを理解する。 また症状が人体に及ぼす影響と人体を守ろうとする回復システムを関連づけることができる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1～4	感覚機能障害患者の理解・感覚器の構造と機能・感覚機能障害	講義・演習	梅木	
	感覚障害のメカニズム①			
	感覚障害のメカニズム②			
	感覚障害のメカニズム③			
1～3	血液・造血機能障害患者の理解・血液・造血構造と機能・血液・造血機能障害	講義・演習	工藤	
	血液・造血障害のメカニズム①			
	血液・造血障害のメカニズム②			
1～4	消化機能障害患者の理解・消化器の構造と機能・消化機能障害	講義・演習	工藤	
	消化機能障害のメカニズム①			
	消化機能障害のメカニズム②			
	消化機能障害のメカニズム③			
1・2	脳神経機能障害患者の理解・脳の構造と機能・脳神経機能障害	講義・演習	櫻木・岩松	
1・2	排尿・排便機能障害患者の理解・排尿・排便の構造と機能・排尿・排便機能障害	講義・演習	鶴留	
学習課題 (事前・事後)	病態生理用紙作成			
成績評価の方法	【感覚機能障害】指示された課題(眼・耳・鼻・咽喉・皮膚の解剖図と眼科疾患の病態生理用紙)・授業態度 【血液・造血機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(急性骨髄性白血病)・授業態度 【消化機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(肝硬変)・授業態度 【脳神経機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(脳出血・脳梗塞) 【排尿・排便機能障害】指示された疾患の病態生理用紙を提出(大腸がん・膀胱がん)			
テキスト	専門Ⅱ 皮膚・眼・耳鼻咽喉 医学書院	専門Ⅱ 脳神経 医学書院		
* 参考文献等	専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院	専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院		
	専門Ⅱ 消化器 医学書院			
学生へのメッセージ	消化・排泄・脳神経・感覚器の働きは人間が生きる上でとても大切な働きです。何らかの原因によって機能が障害されるメカニズムを理解して、症状や疾患の理解を深め病理学、成人看護学看護に繋げていきましょう。			
備考				

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学 I	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	石川 幹真(8時間):外科疾患(外科医師) 中原 博正(4時間):女性生殖器(産婦人科医師) 竹中 伊知郎(2時間):麻酔法(麻酔科医)	1 単位 15 時間	講義	3 年 前 期
授業の概要	外科的治療が必要な主な疾患の病態及び診断・治療について学ぶ。麻酔についても学ぶ。			
授業の到達目標	(1)外科的治療が必要な主な疾患(胃腸・肝・肺・女性生殖器の障害)の病態及び診断・治療について理解する。 (2)小児外科治療について理解する。 (3)麻酔法について理解する。			
授業計画 (全 7 回)			授業方法	担当
(1)1～4	外科疾患各論		講義	石川
	〃 (肺及び胸部)			
	〃 (消化器及び腹部)			
	〃 (甲状腺)			
	小児の外科(イレウス・先天性心疾患)			
試験	終講試験		試験	石川
(2)1～2	女性生殖器疾患		講義	中原
	性分化疾患 子宮がん 子宮筋腫 子宮内膜症			
	胎状奇胎 卵巣腫瘍 妊娠高血圧症候群			
試験	終講試験		試験	
(3)1	麻酔法		講義	竹中
試験	終講試験		試験	
学習課題 (事前・事後)	解剖生理の知識は疾患を理解するための前提となるため,事前に予習をし、授業後は復習を行なう。			
成績評価の方法	授業態度 筆記試験など			
テキスト	別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)			
* 参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器(医学書院) 専門分野 母性看護学各論(医学書院)			
学生へのメッセージ	看護師として患者さんに適切な看護を実践するには疾患についての正確な知識が必要です。			
備考	3人の講師の平均が最終評価点となる。			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	鈴木 邦裕(10時間)呼吸器系(呼吸器科医師) 古賀 徳之(10時間) 循環器系(循環器科医師) 土橋 卓也(6時間) 血管・高血圧系(循環器科医師) 中村 滋郎(4時間) 消化器系(消化器科医師)	1 単位 30 時間	講義	2 年 前～後期
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業の到達目標	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)1～5	呼吸器の診断と検査	講義	鈴木	
	・診察・痰の検査・画像検査・超音波検査・内視鏡検査・呼吸機能検査			
	・動脈血ガス分析・胸腔穿刺検査・生検・気管支肺胞洗浄			
	主な呼吸器疾患			
	・感染性呼吸器疾患・気管支拡張症・嚢胞形成性肺疾患			
	・慢性閉塞性肺疾患・肺腫瘍・肺循環障害・産業性呼吸器疾患			
	・気管支喘息・アレルギー性肺疾患・睡眠時無呼吸症候群・中葉症候群	↓		
	・無気肺・異物および外傷性肺疾患・胸膜疾患・縦隔疾患・その他	講義		
	終講試験	試験	↓	
(2) 1～5	《循環器疾患》	講義	古賀	
	循環器疾患の診断法			
	・診察・X線検査・心電図・負荷心電図・ベクトル心電図			
	・心エコー図・心臓超音波法・心音図・心臓カテーテル法・冠動脈撮影			
	・核医学検査法・中心静脈圧 他			
	主な循環器系の疾患			
	・鬱血性心不全・不整脈・虚血性心疾患・弁膜症・心筋症	↓		
	・心筋炎、リウマチ熱・心膜疾患・心臓腫瘍・血圧の異常・先天性心疾患他	講義		
試験	終講試験	試験	↓	
学習課題 (事前・事後)	授業後必ずテキストを読み復習を行なう			
成績評価の方法	循環器系疾患:筆記試験 血管系の疾患:レポート課題提出			
テキスト * 参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器(医学書院)			
学生へのメッセージ	看護師として患者さんに適切な看護を実践するには疾患についての正確な知識が必要です。			
備考	4人の講師の平均が最終評価点となる			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	鈴木 邦裕(10時間)呼吸器系(呼吸器科医師) 古賀 徳之(10時間) 循環器系(循環器科医師) 土橋 卓也(6時間) 血管・高血圧系(循環器科医師) 中村 滋郎(4時間) 消化器系(消化器科医師)	1 単位 30 時間	講義	2 年 前～後期
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業の到達目標	人体の構造と機能を踏まえ、呼吸器系、循環器系、血管系、消化器系の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
(2)1～3回	血管系の疾患(動脈硬化 高血圧)	講義	土橋	
	高血圧学会参加	レポート課題	↓	
(4)1～2回	消化器疾患の診断法	講義	中村	
	主な疾患(食道・胃・腸)	↓	↓	
	・食道疾患・胃疾患・腸疾患			
	終講試験	試験	↓	
学習課題 (事前・事後)	授業後必ずテキストを読み復習を行なう			
成績評価の方法	循環器系疾患:筆記試験 血管系の疾患:レポート課題提出			
テキスト * 参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器(医学書院)			
学生へのメッセージ	看護師として患者さんに適切な看護を実践するには疾患についての正確な知識が必要です。			
備考	4人の講師の平均が最終評価点となる			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅲ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務教員	末永 賢也（10時間）：運動器疾患（整形外科医師） 柳田 太平（4時間）：腎疾患（腎臓内科医師） 中村 宇大（8時間）：内分泌代謝疾患（糖尿病内科医師） 横山 翌香（4時間）：皮膚疾患・アレルギー疾患・膠原病（皮膚科医師） 森 雄二郎（4時間）：眼科疾患（眼科医師）	1 単位 30 時間	講義	2 年 前～後期
授業の概要	人体の構造と機能を踏まえ、運動器・腎・内分泌、代謝・皮膚・アレルギー、膠原病の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。			
授業の到達目標	(1)【運動器疾患】 (2)【腎疾患】 (3)【内分泌疾患・代謝疾患】 (4)【皮膚疾患・アレルギー疾患・膠原病】 (5)【眼科疾患】 人体の構造と機能を踏まえ、各疾患の病態及び診断・治療に関する基本的な知識を習得する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)1～5	運動器疾患の検査・診断と治療	講義	末永	
	主な運動器疾患			
	変形性関節症（人工股関節置換術・人工膝関節置換術）			
	大腿骨頸部骨折（骨接合術・牽引）			
	慢性関節リウマチ			
	腰椎椎間板ヘルニア（椎弓切除術/ヘルニア切除術）			
	腰椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折			
試験	終講試験	試験		
(2)1～2	腎疾患の検査・診断と治療	講義	柳田	
	・腎機能検査・腎生検 他			
	主な腎疾患			
	・腎炎・腎う腎炎・急性腎不全・慢性腎不全 他			
試験	終講試験	試験		
(3)1～4	内分泌疾患の検査・診断と治療	講義	中村	
	主な内分泌・代謝疾患			
	・視床下部・下垂体前葉系疾患な内分泌・代謝疾患			
	・甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・性腺疾患・消化管ホルモン産生腫瘍			
	・糖尿病			
	・高脂血症・尿酸代謝障害			
試験	終講試験	試験		
(4)～(5)	次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト	次ページに記載			
* 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅲ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	前ページに記載	1 単位 30 時間	講義	2 年 前～後 期
授業の概要	前ページに記載			
授業の到達目標	前ページに記載			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
(4)1～2回	皮膚疾患・アレルギー疾患・膠原病	講義	横山	
	・皮膚疾患・アレルギー疾患・膠原病の検査・診断と治療	↓	↓	
	主な疾患			
試験	終講試験	試験	↓	
(5)1～2回	眼科疾患の検査・診断と治療	講義	森	
	主な疾患	↓	↓	
	・糖尿病性網膜症・網膜剥離・白内障 他			
試験		試験	↓	
学習課題 (事前・事後)	解剖生理の知識は疾患を理解するための前提となるため,事前に予習をし、授業後は復習を行なう。			
成績評価の方法	授業態度 筆記試験など			
テキスト *参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕 眼(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕 皮膚(医学書院)			
学生へのメッセージ	看護師として患者さんに適切な看護を実践するには疾患についての正確な知識が必要です。			
備考	5人の講師の平均が最終評価点となる			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅳ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務教員	荒川 修治（6時間）：神経・筋疾患（脳神経内科医師） 山口 慎也（6時間）：脳外科疾患（脳神経外科医師） 梅野 好啓（2時間）耳鼻咽喉疾患（耳鼻科医師）	1 単位 15 時間	講義	3 年 前～後 期
授業の概要	脳・神経系の主な疾患の病態及び治療（内科的・外科的）・処置について学ぶ。 耳鼻咽喉の主な疾患の病態及び治療・処置・検査について学ぶ。			
授業の到達目標	人体の機能と構造を踏まえ、脳・神経系、耳鼻咽喉疾患の病態及び診断・治療に関する基礎的知識を習得する。			
授業計画 （全 7 回）	授業内容	授業方法	担当	
(1)1～3	神経・筋疾患 の診断法	講義	荒川	
	・病歴聴取・診察（神経学的診察法）			
	・検体検査（血液・髄液）・生理学的検査			
	・画像診断検査・神経心理学検査・生検、病理検査			
	主な神経・筋疾患			
	・脳脊髄の循環障害（脳梗塞・一過性脳虚血発作・脳内出血 高血圧性脳症・静脈洞血栓症・脳血管性認知症・もやもや病その他）			
	・脳・脊髄の感染症及び変性疾患（アルツハイマー病・パーキンソン病その他）			
	・脳・脊髄の機能性疾患（てんかん・その他）			
	・末梢神経及び神経筋接合部、筋肉の疾患（重症筋無力症・進行性筋ジストロフィー他）	↓		
	・神経系の代謝・中毒性疾患	講義		
試験	終講試験	試験	↓	
(2)1～3	外科的治療の適応となる主な疾患	講義	山口	
	・頭部外傷（急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫・慢性硬膜下血腫・陥没骨折 外傷性髄液漏・びまん性脳損傷・頭部外傷後遺症）			
	・脳血管障害（出血性脳血管障害・くも膜下出血・脳動脈瘤・脳動静脈奇形 高血圧性脳出血・虚血性脳血管障害）	↓		
	・脳腫瘍（悪性神経膠腫・髄膜腫瘍・下垂体腺腫・聴神経鞘腫）	講義		
試験	終講試験	試験	↓	
(3)1	耳鼻咽喉疾患の診断法	講義	梅野	
	・聴力検査・耳鏡検査・平衡機能検査			
	主な耳鼻咽喉疾患			
	・中耳炎・メニエール病・副鼻腔炎・扁桃炎・咽頭腫瘍他	↓		
試験	終講試験	試験	↓	
学習課題 （事前・事後）	授業後必ずテキストを読み復習を行なう			
成績評価の方法	授業態度 筆記試験など			
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経（医学書院） 別巻 臨床外科看護各論（医学書院） * 参考文献等 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉（医学書院）			
学生へのメッセージ	看護師として患者さんに適切な看護を実践するには疾患についての正確な知識が必要です。			
備考	3人の講師の平均が最終評価点となる			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	病理学Ⅴ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	大穂 有恒(8時間):肝疾患(肝臓内科医師) 尾畑 鉦史 (6時間):泌尿器疾患(泌尿器科医師)	1 単位 15 時間	講義	3 年 後 期
授業の概要	1. 主な肝疾患(肝炎・肝がんなど)の病態及び診断・治療について学ぶ。 2. 主な泌尿器疾患(膀胱がん・前立腺癌など)の病態及び診断・治療について学ぶ。 3. 主な血液・造血器疾患(白血病など)の病態及び診断・治療について学ぶ。			
授業の到達目標	人体の機能と構造を踏まえ、肝疾患、泌尿器疾患、血液・造血器疾患の病態及び診断・治療に関する基本的な知識を習得する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
(1)1～4	《肝疾患》			
	肝疾患の診断法	講義		大穂
	・病歴聴取・身体所見・内視鏡検査・X線造影検査・肝機能検査			
	・血液学的検査・腫瘍マーカー・肝炎ウィルスマーカー・腹部超音波検査			
	・CT・MRI・血管造影・腹腔鏡・肝生検 他			
	保存的治療の適応となる主な肝疾患			
	・肝炎・肝硬変・肝臓がん・胆道系・脾疾患			
	《血液疾患》			
	血液・造血器疾患の診断法			
	・末梢血検査・骨髓穿刺・リンパ節生検			
	主な血液・造血器疾患			
	・鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・白血病・骨髓異形成症候群・			
	・慢性リンパ性白血病・成人T細胞白血病 他			
試験	終講試験	試験		
(2)1～3	《泌尿器疾患》	講義		尾畑
	泌尿器疾患の診断法			
	・膀胱鏡・腎機能検査・腎血管造影・尿路・膀胱造影			
	主な泌尿器科疾患			
	・膀胱腫瘍・前立腺肥大症・尿路結石			
試験	終講試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	授業後必ずテキストを読み復習を行なう			
成績評価の方法	授業態度 筆記試験など			
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器(医学書院)			
* 参考文献等	専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕 腎・泌尿器(医学書院)			
学生へのメッセージ	看護師として患者さんに適切な看護を実践するには疾患についての正確な知識が必要です。			
備考	2人の講師の平均が最終評価点となる			

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	薬理学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	後藤 渉	1 単位	講義	1 年
実務経験	薬剤師	15 時間		後 期
授業の概要	現代医学における薬理学の意義や役割を理解し、薬物の作用機序、特徴、副作用、取り扱いや管理について学ぶ。			
授業の到達目標	①薬物の性質について理解できる。 ②薬物の投与方法について理解できる。 ③薬剤を取り扱う際の注意点について理解できる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	薬物治療のめざすもの	講義		後藤
2	薬物はどのように作用するのか			
3	薬物はどのように体内をめぐっていくのか			
4	薬効に影響する因子 有害作用は何故起こるのか			
5	薬の管理 抗感染症薬			
6	抗がん薬			
7	免疫治療薬			
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)	事前に教科書(テキスト)に目を通して概要を把握しておく。			
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 薬理学(医学書院)			
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	薬理学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	後藤 渉	1 単位	講義	2 年
実務経験	薬剤師	15 時間		前 期
授業の概要	薬理学の基礎を踏まえ、看護に必要な臨床での薬剤に関する知識を習得する。			
授業の到達目標	①薬剤の作用機序および効果を理解できる。 ②薬剤の代表的な副作用を理解できる。 ③投薬時の注意や看護のポイントについて理解できる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	抗アレルギー薬 抗炎症薬	講義		後藤
2	末梢での神経活動に作用する薬物			
3	心臓・血管系に作用する薬物			
4	〃			
5	中枢神経系に作用する薬物			
6	〃			
7	消化器系・物質代謝に作用する薬物			
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)	事前に教科書(テキスト)に目を通して概要を把握しておく。			
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 薬理学(医学書院)			
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

授業科目	栄養学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	中岡 寛	1 単位	講義	1 年
実務経験	大学教授	15 時間		前 期
授業の概要	看護の対象となるあらゆる人々の健康の保持・増進、あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための基本的な知識を学ぶ。			
授業の到達目標	栄養素の体内利用に関して、生化学で得た知識をもとに、健康の維持とその増進に必要な食物及び食生活について理解する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	栄養素の種類とはたらき(糖質)	講義		中岡
2	栄養素の種類とはたらき(脂質)	講義		
3	栄養素の種類とはたらき(タンパク質)	講義		
4	栄養素の種類とはたらき(ビタミン)	講義		
5	栄養素の種類とはたらき(ビタミン)	講義		
6	栄養素の種類とはたらき(ミネラル)	講義		
7	臨床診査(脂質異常 糖質等)	講義		
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 栄養学(医学書院)			
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	環境学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	嵐谷 奎一	1 単位	講義	1 年
実務経験	大学非常勤講師	15 時間		前 期
授業の概要	環境破壊の実態や環境保全の現状を知り、人間と自然環境の関係、生活環境における安全について理解する。			
授業の到達目標	環境により生じる健康障害にはどのようなものがあるか、またそれらが生じる原因は何か理解する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1～3	環境について 人間と生活環境 健康問題と環境 環境問題の動向と公衆衛生 居住環境についての生活衛生	講義		嵐谷
4～5	環境問題 環境基本法 環境破壊 地球温暖化	講義		
6	環境学と国際化 保健医療分野における国際協力	講義		
7	環境保全 環境社会学教育	講義		
試験	終講試験	試験		嵐谷
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生(医学書院)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	公衆衛生学	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	中西 昌嗣	1 単位	講義	3 年
実務経験	産業医	15 時間		後 期
授業の概要	健康の保持・増進に影響を及ぼす諸条件や公衆衛生に関連する統計情報を学び、組織的な保健活動について理解する。			
授業の到達目標	1. 保健統計の意義を理解する。 2. 公衆衛生における保健医療のしくみや社会資源について理解する。 3. どのような公衆衛生活動が行われているか知る。 4. 職場における健康管理と安全対策について知る。			
授業計画 (全 4 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	公衆衛生の理解概論 ・衛生統計 ・健康と公衆衛生 ・ヘルスプロモーション ・プライマリヘルスケア 人口と公衆衛生 ・人口動態 ・国民の健康と保健統計	講義	中西	
2～3	保健行政 ・衛生行政の基本的な考え方 ・医療保障			
4	疾病の疫学と予防感染症 ・疫学調査 ・感染性疾患および非感染性疾患の疫学と予防			
5～6	公衆衛生活動 ・健康教育 ・産業保健			
7	危機管理			
試験	終講試験	試験	中西	
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生学(医学書院)			
* 参考文献等	*国民衛生の動向(厚生労働統計協会)			
学生へのメッセージ				
備考	昨今の時代背景において法改正・制度改正には目を瞞るものがある。 最新の統計は厚生労働省ホームページでもチェックできる。			

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	社会保障	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	藤岡 良幸	2 単位	講義	3 年
実務経験	社会福祉士 相談支援専門員	30 時間		前～後 期
授業の概要	社会保障制度と社会福祉の専門的方法を学び、社会で生活する人に必要な社会資源について理解する。			
授業の到達目標	社会保障・社会福祉の基本的な原理や現代社会における制度の必要性を理解し、それが単に試験合格のためでなく、現在・将来の自分や家族を守るためのものであり、さらに看護職との関係性の認識やクライアントへの対応に必要なものであることを自覚する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	講義の進め方。テキストの見方と調べ方。配付資料の説明など	講義		藤岡
2	社会保障・社会福祉とは何か。現代社会における制度の必要性			
3	社会保障・社会福祉の歴史。戦後における諸制度の整備・発展			
4	近年の動向と諸尾制度の見直し。社会・経済的背景と家族の変化			
5	所得保障1：年金保険・労働保険・社会手当制度の生成と現状			
6	所得保障2：最低限度の生活と公的扶助制度。制度生成と現状			
7	高齢化社会と高齢者福祉1：老人問題と老人福祉。現状と課題			
8	高齢化社会と高齢者福祉2：高齢者の医療・介護。現状と課題			
9	少子化社会と児童福祉1：社会・地域・家族の変化と児童福祉			
10	少子化社会と児童福祉2：少子化・児童虐待・母子家庭と福祉			
11	障害者福祉：身体障害者・知的障害者・精神障害者の各福祉			
12	社会福祉の基盤：社会福祉行政・財政・従事者・施設・受益者			
13	全制度的課題：福祉サービスと保健・医療・看護・介護の連携			
14	国家試験：最近の福祉関係問題出題傾向と直前までの学習方法			
15	国家試験：過去問ミニテストの実施と答案の返却・解答・解説		講義	
試験	終講試験		試験	藤岡
学習課題 (事前・事後)	国家試験(社会保障・社会福祉関係問題)の8割以上を正答できる力をつける。			
成績評価の方法	筆記試験(100点)で評価			
テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会制度・社会福祉(医学書院)			
* 参考文献等	その他、必要資料は配付する。			
学生へのメッセージ	社会保障・社会福祉の制度内容は、範囲も広く、頻繁に改正・見直しがあるので、関連資料と共に、特に試験前には、最新のものを確認しておくのが望ましい。			
備考	関係法規、資料・データなどは厚生労働省ホームページなどでもチェックできる。			

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	関係法規Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	櫻庭 総	1 単位 15 時間	講義	1 年 前 期
実務経験	大学教授			
授業の概要	看護職に必要な法令について理解し、厚生行政のしくみ及び医事法規概要・保助看法・関係法規・医療過誤について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 法の仕組み、基本的な考え方を理解することができる。 2. 保健医療福祉に関する法制度の内容や職種の果たす役割について理解することができる。 3. 生活者の健康を守るために必要な法規の内容を理解することができる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	・保助看法	講義	櫻庭	
2	・医療過誤			
3	・医療法			
4	・患者の権利			
5	・労働基準法			
6	・障害者関連法規			
7	・臓器移植法・母体保護法			
試験	終講試験	試験	櫻庭	
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令(医学書院)			
学生へのメッセージ				
備考				

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

授業科目	関係法規Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	櫻庭 総	1 単位	講義	3 年
実務経験	大学教授	15 時間		後 期
授業の概要	保健医療福祉の動向を知り、看護業務実践における法律を理解する。			
授業の到達目標	1. 最新の保健医療福祉の動向を理解することができる。 2. 法改正の背景や目的を理解し、看護職としての果たす役割を理解することができる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	障害者関連法規	講義		櫻庭
2	〃			
3	保助看法、医療過誤			
4	〃			
5	医療法・労働基準法など			
6	〃			
7	各種虐待防止法			
試験	終講試験	試験		櫻庭
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令（医学書院）			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野(基礎看護学)

授業科目	看護学概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	芹野 恭子	1 単位	講義	1 年
実務経験	看護師・教員	30 時間		前 期
授業の概要	看護の主要概念(健康 人間 環境 看護)をとらえ、ナイチンゲールの「看護覚え書」を基本として、ナイチンゲール看護論について目的論・対象論・方法論を学ぶ。 看護とは何か、看護の対象、看護の役割、歴史的変遷について学ぶ。また医療・看護を取り巻く社会の状況から、看護の位置づけ、看護の対象者および看護活動の場について理解する。			
授業の到達目標	1. 看護の概念・定義・看護の歴史・教育制度・社会的背景について理解する。 2. 看護職の法的責任と倫理の必要性を知る。 3. 「看護とは何か」を考えるための基本となるナイチンゲール看護論を学ぶ。 4. 保健・医療・福祉システムにおける看護の位置づけ、看護の役割を理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1回・2回	看護とは	講義 (GW)	DVD視聴	芹野
3回	看護の歴史	講義 (GW)		
4回	ナイチンゲールの功績 看護覚え書きについて			
5回	看護の概念 看護の定義 看護の役割			
6回	看護者の基本的責務 倫理綱領			
7回	看護の主要概念 健康とは			
8回	病気とは 看護の視点で病気を見る			
9回	看護の目的論 看護の5つのものさし			
10回	看護の対象とその理解 看護の対象論その1			
11回	看護の対象とその理解 看護の対象論その2			
12回	看護の対象とその理解 看護の対象論その3			
13回	看護実践の理論的根拠 看護理論			
14回	看護実践の理論的根拠 KOMIケア理論 看護の方法論(看護過程)			
15回	看護の提供のしくみ(保健・医療・福祉システム)	↓		↓
試験	筆記試験			芹野
学習課題 (事前・事後)	入学前事前課題 国民皆保険制度について ナイチンゲール「看護覚え書」を読んで、レポート提出 2000字以上 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読んで、レポート提出 2000字以上			
成績評価の方法	学習課題 40点 筆記試験 60点 合計点で評価する。 学習課題については提出期限に遅れた場合、記載内容の不備は減点対象となります。			
テキスト	看護学概論 医学書院 実践を創る 新・看護学原理 ナイチンゲール看護思想を基盤として 現代社 ナイチンゲール看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
* 参考文献等	* 看護学概論 メヂカルフレンド社他			
学生へのメッセージ	ナイチンゲールの「看護覚え書」を基本として、ナイチンゲール看護論を学びます。 「看護とは何か」についてグループワークを通して一緒に考えていきましょう。			
備考				

専門分野（基礎看護学）

授業科目	看護研究Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	永野 薫(看護師・教員) 黒坂 知絵(工学博士 大学講師)	1 単位 30 時間	講義・ワーク	1 年 前～後 期
授業の概要	看護における研究の必要性、意義、研究のプロセスを学習し、研究方法の基礎を理解する。また看護や生活の中の疑問、問題点の中から研究テーマを見つけ統計的検定方法を用い、研究結果を客観的に証明する。			
授業の到達目標	看護研究の意義と方法について理解する。 テーマを見つけ統計を活用して、研究に取り組み研究論文を作成し発表する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	看護研究の概要(看護研究の意義と歴史的変遷・研究のプロセス)	講義	永野	
2	研究の種類と研究方法			
3	看護研究における倫理的配慮 (倫理指針・著作権と引用)			
4	グループ研究の進め方 研究論文の構成と研究成果の発表方法			
5	文献検索とクリティーク	↓	↓	
6	グループでの研究計画書作成～研究の実施～論文作成・発表	演習・グループワーク	黒坂	
7				
8				
9				
10				
11				
12			黒坂	
13	↓	↓	永野	
14	研究発表会	発表会	↓	
15	〃		↓	
試験	終講試験	試験	永野	
学習課題 (事前・事後)	発表まで、自分たちで研究計画を立て、グループワークをしていきます。			
成績評価の方法	筆記試験(5割) 論文評価(5割) 他、研究への取り組み(参加状況)及びレポート作成、発表までの経過を通して評価する 論文は3人の教員にて評価表に基づき論文評価を行なう。			
テキスト * 参考文献等	看護師・保健師をめざすひとのやさしい統計処理―保健・医療データの活用―(実教出版) 【別巻】看護研究(医学書院)			
学生へのメッセージ	問題意識(何故だろう?)を持って日々の生活を送ってみましょう。研究のテーマがそこに見いだせません。 グループワークでは、しっかりメンバーシップ・リーダーシップを発揮していきましょう。			
備考	グループワークの時間は上記の時間以外にも随時、カリキュラムと相談し時間内に確保していく予定です。 担当アドバイザーと連携を取り論文作成・発表まで行ないます。 研究の統計処理は情報科学の授業と連動していますので、随時相談をしながらすすめます。			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	看護研究Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	藤田 直子	1 単位 30 時間	講義・ワーク	3 年 前～後 期
実務経験	看護師・教員			
授業の概要				
授業の到達目標	事例研究をまとめ、看護の現象を科学的に探求する能力を養うスキルを習得する。 また事例研究をまとめる過程を通して自らの看護観を深める。発表を通してプレゼンテーション 研究における倫理的態度を学ぶ。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	1. 事例研究とは	講義	藤田	
	2. 事例研究の目的・目標			
	3. 論文の構成について			
	4. 事例研究スケジュールについて			
2	5. 研究計画書について	講義	藤田	
	6. 事例研究論文の作成について			
	7. 事例研究の評価について			
3	8. クリティークについて	講義・演習	藤田	
	9. プレゼンテーション			
	10. 事例研究発表会について			
4 5	論文の作成	演習	各事例	
			指導教員	
6 7	発表練習	演習	藤田	
8～15	事例研究発表会	演習	藤田	
学習課題 (事前・事後)	実習で受け持った事例を論文としてまとめる。自己のテーマを絞り込み文献のクリティークを積極 的に行う。			
成績評価の方法	事例研究への取り組み及び論文作成過程とその発表を通して総合的に評価する。 3人の教員にて評価表に基づき論文評価を行う。			
テキスト	【別巻】看護研究(医学書院)			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ	論文の作成は難しく感じますが、実習で行った自分の看護実践を深く探求しましょう。			
備考				

専門分野（基礎看護学）

授業科目	看護安全	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	小倉 直美	1 単位 15 時間	講義・演習	1 年 前期
実務経験	看護師・教員			
授業の概要	医療・看護における安全の意義と目的を理解し安全を守る基本的な技術と感性を養う。			
授業の到達目標	・医療・看護における安全に必要性を理解できる。 ・感染防止のための技術の基本を習得できる。 ・記録・報告の必要性を理解する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	・安全の意義と目的	講義	小倉	
	医療事故の原因	講義		
2	医療事故防止	講義		
	日常生活場面でのリスクと安全	講義		
3	・感染および感染防止	演習		
	感染防止対策:スタンダードプリコーション 感染経路別対策	演習		
4	感染防止対策:洗浄・消毒・滅菌	講義		
	薬液濃度の計算 滅菌物の取り扱い 無菌操作			
	感染性廃棄物の取り扱い			
5	・感染防止(演習)	演習		
6	手洗い 防護用具の着脱方法			
	無菌操作 ケア時の感染予防			
7	・記録・報告	講義		
終講試験	終講試験		小倉	
学習課題 (事前・事後)	・看護安全技術項目の学習カード作成 * 各提出日は事前に指示する。			
成績評価の方法	筆記試験、課題、 演習・授業態度で総合的に評価します。			
テキスト * 参考文献等	基礎看護技術 I (医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎臨床看護技術(医学書院)			
学生へのメッセージ	この科目は、日頃の学校生活、演習や実習の中で必要な基本的な技術を行います。			
備考				

専門分野（基礎看護学）

授業科目	生活援助方法論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	兼川 五月(環境)看護師・教員 永野 薫(食事)看護師・教員 堺 優子(清潔・衣生活)看護師・教員 小倉 直美(姿勢・移動)看護師・教員 工藤 加奈子(睡眠・休息)看護師・教員 藤田 直子(排泄)看護師・教員	2 単位 90 時間	講義・演習	1 年 前～後 期
授業の概要	人間にとっての「環境」「食事」「清潔・衣生活」「睡眠・休息」「排泄」の日常生活援助の基本的知識・技術について学ぶ。			
授業の到達目標	看護実践に必要な看護技術を科学的根拠に基づき理解できる。 日常生活援助技術の原理原則をふまえ、実践することが出来る。 * 各詳細科目の到達目標及び毎回の授業内容については、別途配布する。			
授業計画 (全 45 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)1～9	【環境】	講義・演習	兼川	
	①環境とは ②健康的な生活環境の条件 ③病棟の構造と病室	↓	↓	
	④病床の整備(ベットメイキング、シーツ交換、毎日の病床整備と危険防止)	↓	↓	
試験	終講試験	試験	兼川	
(2)1～4	【睡眠・休息】	講義・演習	工藤	
	①サーカディアンリズム ②レム睡眠・ノンレム睡眠	↓	↓	
	③睡眠に影響する因子と援助 ④休息への援助 ⑤電法	↓	↓	
試験	終講試験	試験	工藤	
(3)1～6	【姿勢・移動】	講義・演習	小倉	
	①安楽な姿勢と動作 ②ボディメカニクス	↓	↓	
	③活動・運動の援助、体位変換、移動の援助	↓	↓	
試験	終講試験	試験	小倉	
(4)1～11	【清潔・衣生活】	講義・演習	堺	
	①身体清潔の意義 ②身体清潔の目的 ③身体清潔の援助方法	↓	↓	
	④衣生活の意義 ⑤衣類選択の援助 ⑥衣類着脱の援助 ⑦整容	↓	↓	
試験	終講試験	試験	堺	
(5)1～7	【食事】	講義・演習	永野	
	①食事の意義 ②消化吸収のメカニズム ③疾病時の食事と援助	↓	↓	
	④嚥下のメカニズム ⑤経口的栄養法	↓	↓	
試験	終講試験	試験	永野	
(6)1～8	【排泄】	講義・演習	小倉	
	①排泄の意義 ②排泄と排便のメカニズム ③排泄の観察	↓	↓	
	④排泄障害と援助 ⑤排泄時の患者への援助(演習:床上排泄、浣腸、導尿)	↓	↓	
試験	終講試験	試験	小倉	
学習課題 (事前・事後)	各生活援助技術の練習			
成績評価の方法	筆記試験 授業態度等 詳細科目の具体的評価方法は別途配布する			
テキスト * 参考文献等	専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(日本看護協会)			
学生へのメッセージ	生活援助技術によっては授業終了後、基礎看護技術テストがあります。基礎看護学Ⅰ実習の履修条件となります。しっかり練習に取り組みましょう。			
備考	基礎看護技術テスト項目や日程は事前に説明があります。			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	ヘルスアセスメント	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利(看護師・教員) (18時間) 古田 小雪(看護師・教員) (26時間)	1 単位 45 時間	講義・演習	1 年 前 期
授業の概要	対象の健康状態の把握に必要なフィジカルアセスメントやコミュニケーション方法を理解し、看護実践における基本的なアセスメント能力を習得する。			
授業の到達目標	1.ヘルスアセスメントの意味を理解し、フィジカルアセスメント技術を習得することができる。 2.コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、適切なメッセージを伝える方法を習得する。			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	1. ヘルスアセスメントとは	講義	古田	
2	2. アセスメントの技術(呼吸・体温・脈拍測定)	演習		
3	3. バイタルサインの実際(バイタル測定値からのアセスメント)	講義		
4	4. アセスメント技法(呼吸・体温・脈拍測定・血圧測定)	演習		
5	5. フィジカルアセスメントの基本技術 (問診・視診・触診・打診・聴診、身体計測)	講義・演習		
6	6. バイタルサインの実技演習(技術チェック説明と実践)	演習		
試験	終講試験	試験		
7 8	7. 8. 心臓・循環器系のアセスメント	講義・演習	梅木	
9 10	9. 10. 胸部/肺のアセスメント	講義・演習		
11 12	11. 12. 腹部のアセスメント	講義・演習		
13 14	13. 14. 脳神経系のアセスメント	講義・演習		
15	15. 事例学習	講義・演習		
試験	終講試験	試験		
16	16. コミュニケーションの意義と目的	講義	古田	
17	17. コミュニケーションの構成要素と成立過程 (プロセスレコード)	講義		
18	18. 効果的なコミュニケーションの実際	講義・演習		
19	19. 効果的なコミュニケーションの実際			
20～21	20～21. 効果的なコミュニケーションの実際(ロールプレイなど)	講義・演習		
22	22. コミュニケーション障害への対応	講義・演習		
試験	終講試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	バイタルサイン測定技術に関する学習カード作成、他講義の中で提示する。 コミュニケーション演習でのワークを終講試験の一部とする。プロセスレコードを課題とする。			
成績評価の方法	筆記試験 課題提出 授業態度等			
テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門 基礎看護学技術 I 基礎看護学② 医学書院 看護につなげる看護形態機能学 メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
学生へのメッセージ	基礎看護技術の中でもフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定は1年次から確実に身につけて欲しい項目です。 また、コミュニケーションも看護場面ではとても大切な技術になります。 ヘルスアセスメントの基礎をしっかりと習得しましょう。			
備考	2人の講師の評価の平均(3回の試験平均)が最終評価点となる。			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	看護過程方法論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	兼川 五月(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要	看護過程の基本を知り、具体的な展開方法を学ぶ。			
授業の到達目標	”ナイチンゲールの看護思想”と”KOMIケア理論”を活用して看護過程の具体的な展開方法を理解する。事例の演習を通して、看護実践の具体的な展開を看護の目的論と対象論にそって展開できる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	看護の目的・対象・方法	講義	兼川	
	KOMIケア理論における看護の目的・対象・方法論			
2	看護の目的と看護過程			
	看護過程の概要 看護過程展開の具体的方法			
3～4	KOMIチャートシステムによる看護過程展開の具体的な道筋			
	KOMIチャートシステムについて	↓		
	レーダーチャート・KOMIチャートの理解と使用の実際	講義		
5～6	模擬事例の看護過程の展開	講義・演習		
	模擬事例の紹介	↓		
	情報の整理⇒レーダーチャート・KOMIチャートの記載⇒ケアの方向性	↓		
7～13	事例展開・演習	演習		
	・基本情報の整理とアセスメント ・課題の抽出 ・ケアの方向性	↓		
	・援助計画の立案(優先度が高いもの)	↓		
14～15	発表 ①KOMIレーダーチャート、KOMIチャートを図示、②アセスメントの整理とケアの方向性、看護計画(優先度が高い課題をひとつ)を発表	発表		
			↓	
試験	終講試験	試験	兼川	
学習課題 (事前・事後)	授業開始前には、「ナイチンゲール看護覚え書き」を読むこと及び看護学概論の授業を復習しておくこと			
成績評価の方法	筆記試験および演習課題			
テキスト	実践を創る 新看護学原論 現代社 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) KOMI理論 看護とは何か 介護とは何か 現代社 実践を創る 新・KOMIチャートシステム 現代社 看護につながる看護形態機能学 メヂカルフレンド社			
*参考文献等	看護覚え書き 現代社			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野（基礎看護学）

授業科目	治療処置別看護Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	古田 小雪(14時間):薬物療法(看護師・教員) 山田 三千穂(10時間):創傷管理(皮膚排泄認定看護師) 木原 舞(10時間):酸素療法(看護師) 中村 まい(10時間):輸液療法(クリティカルケア認定看護師)	1 単位 45 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要				
授業の到達目標	(1)【薬物療法】 (2)【輸液療法】 (3)【創傷管理】 (4)【酸素療法】 } 各療法における対象の理解ができる。 } 各療法における対象に及ぼす影響が理解できる。 } 各療法における基本的な援助技術の実際が理解できる。			
授業計画 (全 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)1	薬物療法(与薬)の基礎知識・看護師の役割・薬物の管理	講義	古田	
2	与薬法の目的・方法の理解・与薬法の作用機序の理解	講義	↓	
3	各与薬法の方法と留意点の理解(経口・口腔内・直腸内・経皮・吸入)	講義・演習		
4	各注射法の種類・目的・方法・留意点の理解	講義・演習		
5～6	直腸内与薬の実際	講義・演習		
7	安全な与薬(まとめ)	講義	↓	
試験	終講試験	試験	古田	
(2)1～5	輸液療法時の看護	講義	↓	
	①体液管理			
	②点滴静脈内注射・中心静脈栄養法			
	③輸血			
	④栄養管理 (NST)	講義		
試験	終講試験	試験	中村	
(3)(4)	以下、次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	治療処置別看護Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	古田 小雪(14時間):薬物療法(看護師・教員) 山田 三千穂(10時間):創傷管理(皮膚排泄認定看護師) 木原 舞(10時間):酸素療法(看護師) 中村 まい(10時間):輸液療法(クリティカルケア認定看護師)	1 単位 45 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要	前のページと同じ			
授業の到達目標	前のページと同じ			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法	担当	
(3)1～5	①創傷とは	講義	山田	
	②創傷の治癒過程	↓	↓	
	③創傷の処置と看護	↓	↓	
	③創傷の処置と看護	演習	↓	
	④褥瘡ケア	講義	↓	
	④褥瘡ケア	演習	↓	
試験	終講試験	試験	山田	
(4)1～5	・酸素療法時の看護	講義	木原	
	・人工呼吸管理	↓	↓	
	・吸引演習	演習	↓	
	〃		↓	
試験	終講試験	試験	木原	
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	授業態度 筆記試験 課題など			
テキスト *参考文献等	専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護学総論(医学書院) 〔別巻〕臨床外科看護総論(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
学生へのメッセージ	治療や処置の根拠を学び、看護技術につなげていきましょう。			
備考	4人の講師の平均が最終評価点となる			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	治療処置別看護Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	永野 薫(12時間)(看護師・教員) 塚 優子(10時間)(看護師・教員) 相原 美加(12時間)(臨床検査技師) 山口 紗代(看護師)・山内 大樹(臨床工学士)(10時間)	1 単位 45 時間	講義	2 年 前 期
授業の概要	診察・検査・放射線療法・化学療法・麻酔および医療機器使用時における看護の基本的知識、技術を学ぶ。			
授業の到達目標	(1)【診察・検査に伴う看護】1. 診察・検査における看護師の役割を理解する。2. 検査の意義・目的について理解する。 3. 検査を受ける対象を理解し看護上の問題と援助方法について理解する。 (2)【臨床検査】臨床検査の目的や意義について理解する。 (3)【放射線療法及び化学療法時の看護】放射線療法・化学療法を受ける対象を理解し、看護援助方法について理解する。 (4)【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】1. 麻酔を受ける対象を理解し基本的援助について理解する。 2. ME機器の基本的な取り扱い方を理解する。			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
	【診察・検査に伴う看護】			
(1)1～6	1 診察時の介助 検査の意義・目的	講義		永野
	2 検査における看護師の役割 検査援助の基本と実際	講義 演習		
	3 検体検査(尿・便・喀痰・穿刺液)の概要と看護師の役割	講義 DVD 演習		
	4 検体検査(血液) 静脈血採血の基本技術と留意点	講義		
	5 生体検査(x線・CT・MRI・核医学)の概要と看護師の役割			
	6 内視鏡検査の概要と看護師の役割	↓		↓
試験	終講試験	試験		永野
	【臨床検査】			
(2)1～6	1 臨床検査総論	講義		相原
	2 生化学検査1 凝固検査・腫瘍マーカー			
	3 生化学検査2			
	4 生化学検査3 尿検査			
	5～6 血液・凝固検査	↓		↓
試験	終講試験	試験		相原
(3)(4)	以下、次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	治療処置別看護Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	永野 薫(12時間)(看護師・教員)堺 優子(10時間)(看護師・教員) 相原 美加(12時間)(臨床検査技師) 山口 紗代(看護師)・ 山内 大樹(臨床工学士)(10時間)	1 単位 45 時間	講義	2 年 前 期
授業の概要	前ページと同じ			
授業の到達目標	前ページと同じ			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
	【放射線療法及び化学療法時の看護】			
(3)1～5	1 2 放射線療法を受ける患者の看護(放射線被曝防止策 演習含む)	講義 演習		堺
	3 4 化学療法を受ける患者の看護	↓		↓
	4 5 化学療法と副作用の看護	↓		↓
試験	終講試験	試験		↓
(4)1～5	【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】			
	1～4麻酔について 麻酔前の準備 全身麻酔・局所麻酔	講義		山口
	麻酔に使用される薬物とその特徴 麻酔時の看護	↓		↓
	5 ME機器について 種類と原理 看護	↓		山内
試験	終講試験	試験		山口・山内
学習課題 (事前・事後)	配付資料で授業後に復習すること			
成績評価の方法	授業態度 筆記試験			
テキスト	【診察・検査に伴う看護】基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 【臨床検査】臨床検査(医学書院) 【放射線療法及び化学療法時の看護】臨床放射線(医学書院)臨床看護学総論(医学書院) *参考文献等 【麻酔時の看護・医療用機器の原理と管理】臨床看護学総論(医学書院)臨床外科看護総論(医学書院)			
学生へのメッセージ	この科目は実習で経験・見学する機会がありますので、配付資料などは実習で活用できるように整理しておきましょう。			
備考	4人の講師の平均が最終評価点となる			

専門分野（基礎看護学）

授業科目	リハビリテーション看護論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	島添 裕史他 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要	様々な健康障害に応じたリハビリテーションについて、演習を取り入れ授業を行なう。			
授業の到達目標	障害により生活機能や生活スタイルの変更を余儀なくされた対象者を理解し、リハビリテーション看護のあり方、具体的方法について学ぶ。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	リハビリテーション概論、障害とは	講義		島添
2	障害受容、リハビリテーションの対象疾患	講義		
3	杖歩行の実際(松葉杖・1本杖)	講義・演習		
4	心不全のリハビリテーション	講義		
5	運動器疾患のリハビリテーション	講義		
6	関節可動域(ROM)と徒手筋力検査(MMT)について	講義・演習		
7	呼吸リハビリテーションについて	講義		
8	脳卒中リハビリテーションについて	↓		
9	糖尿病のリハビリテーションについて			
10	移乗動作の実際	講義・演習		
11	作業療法とは	講義		
12	高次機能障害について	↓		
13	ADL動作と自助具について			
14	言語聴覚療法とは	↓		
15	嚥下、口腔ケアについて			↓
試験	終講試験	試験		島添
学習課題 (事前・事後)	テキスト、配付資料で授業後に復習をすること			
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	【別巻】 リハビリテーション看護(医学書院)			
学生へのメッセージ				
備考	現場で活躍しているリハビリスタッフ(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)が講義をします。			

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	柳田 美香（看護師・教員） 高松 浩文（病院・事務長） 丸尾 圭子（看護師）	1 単位 15 時間	講義	1 年 後 期
授業の概要	在宅看護の意義及びその必要性和特性を理解する。八幡東区の特徴と地域で生活する対象の理解、社会資源の活用について学ぶ。			
授業の到達目標	・在宅看護の意義と目的、看護師の役割が理解できる。 ・在宅看護の歴史的変遷と制度の変化について理解できる。 ・地域の特徴をふまえて地域で生活する人々の理解と社会資源の活用について学ぶ。 ・家族をアセスメントする視点や地域社会との連携について理解できる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	在宅看護を取り巻く社会背景	講義		高松
	医療・看護・介護の変容 多様化する看護活動			
2	介護保険の仕組み	講義		高松
3	訪問看護ステーションの仕組み、役割	講義		丸尾
4	訪問看護の実際	講義		丸尾
5	在宅看護の対象者とその特徴	講義、GW		柳田
	家族看護			
	社会の変化			
6	地域で生活するとは	講義		
	地域包括ケアシステム、地域環境を知る			
7	自分の暮らす地域を知る	演習		
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)	・随時宿題あり			
成績評価の方法	・筆記試験、レポート課題等（授業態度については減点あり）			
テキスト * 参考文献等	・地域・在宅看護論①②(医学書院) ・国民衛生の動向 他、随時資料配付			
学生へのメッセージ	自分が住んでいる地域や社会の情勢に興味を持ってください。 家族とは何か、介護とは何か実生活の中で常に考えていけるようになりましょう。			
備考				

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	柳田 美香(看護師・教員)	1 単位 15 時間	講義・演習	2 年 前 期
授業の概要	地域で生活する様々な状況にある人々の、健康レベルに応じた生活支援、健康の保持増進、疾病予防の取り組み、サービスの実際を学ぶ。フィールドワークを通して地域の状況を理解し、地域づくりの対策を考える。			
授業の到達目標	地域で生活する人々の健康と暮らしを支える看護を学ぶ。地域で生活する障がい者および障がい児を支援するサービスの実際を知る。 ① 地域で生活する人々の暮らしを知る。 ② フィールドワークを通して、地域包括ケアシステムが地域・暮らしの中でどの様に利用されているかを知る。 ③ 地域における自助・互助の活動を知る。「ともに暮らす,ともに支える」地域の活動を考える。			
授業計画 (全 8 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義	柳田	
2	フィールドワークに向けての事前準備	講義		
3 4	フィールドワーク活動 ・八幡東区の地域を理解する	講義・演習		
5 6	フィールドワーク後発表準備 ・地域の持つ力とは何か、課題と解決方法を考える	GW		
7 8	まとめ 発表	演習	↓	
学習課題 (事前・事後)	・随時課題あり			
成績評価の方法	講義やグループ活動の参加態度(20%)課題提出(30%)発表・レポート(50%)により評価する。			
テキスト * 参考文献等	①地域・在宅看護の基盤(医学書院) ②地域・在宅看護の実際(医学書院) GWで必要な情報収集を行って講義に臨んでください。			
学生へのメッセージ	看護学校が位置する八幡東区の現状(良い面と改善すべき課題)を理解し、地域の方々とコミュニケーションを図りながら、よりよく住みやすい地域づくりとは何なのかを考えましょう。 フィールドワークを通して、グループ活動での計画性・協調性も高めていきましょう。			
備考				

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	柳田 美香(看護師・教員) 小倉 直美(看護師・教員)	2 単位 45 時間	講義・演習	2 年 前～後 期
授業の概要	・地域及び施設で生活するあらゆる世代の療養者を対象とし、在宅看護に必要な知識・技術・態度について学ぶ ・在宅で生活する療養者と家族を支える訪問看護師の役割について学ぶ。 ・在宅で生活する医療依存度の高い難病や重度障害のある療養者、在宅ターミナルの看護の実践について学ぶ			
授業の到達目標	①在宅看護に必要な知識・技術・態度を理解する ②さまざまな在宅看護技術を理解する ③医療依存度の高い療養者に対する看護の実践を理解する ④在宅で療養する障害児・者の生活を支える看護の実践を理解する ⑤在宅ケアチームにおける多職種連携の実践と看護師の役割を知る			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	在宅における訪問マナーとコミュニケーション	講義	柳田	
2	在宅におけるフィジカルアセスメント(呼吸機能に関する在宅看護技術)	講義		
3	在宅における感染管理とリスクマネジメント	講義		
4	生活を支える在宅看護技術(清潔の援助技術)	講義		
5	生活を支える在宅看護技術(排泄の援助技術)	講義		
6	在宅における医学管理を必要とする人と看護(膀胱留置カテーテル法)	講義		
7	在宅における医学管理を必要とする人と看護(経管栄養法)	講義・演習		
8	在宅における医学管理を必要とする人と看護(在宅中心静脈栄養法)	講義		
9・10	在宅酸素療法を行っている療養者に対する看護	講義・演習		
11・12	在宅人工呼吸療法(NPPV療法)を行っている療養者に対する看護	講義・演習		
13・14・15・16	難病(ALS)の療養者に対する看護とTPPV療法	講義・GW		
17・18	脊髄損傷の療養者に対する在宅看護の実践	講義		
19	子どもの在宅療養	講義		
20・21	在宅ターミナルケア	講義		小倉
22	在宅ケアチームにおける看護師の役割と関係職種との連携	講義		院内講師
学習課題 (事前・事後)	①授業後、自宅にて必ずテキストを読み復習を行う ②第1～12回の講義前・後は、1年次に履修した講義の授業資料やテキストを参考にして 地域・在宅看護論Ⅱの講義内容と踏まえながら復習を行う。			
成績評価の方法	①中間試験:筆記試験 100点 ②終講試験:筆記試験、レポートにて100点 (レポート提出日および発表日に欠課および欠席をした者は減点とする)			
テキスト * 参考文献等	①地域・在宅看護の基盤(医学書院) ②地域・在宅看護の実践(医学書院) 他、随時資料配布			
学生へのメッセージ	地域で生活する様々な療養者を理解し、病院内での看護を踏まえながら在宅看護の特徴を学んでいきます。 また地域で生活する療養者を支えるために、病院内で働く看護師と訪問看護師がどのような役割を担っているのかを学び、「患者・家族の生活や思いを尊重した看護」について一緒に考えていきましょう。			
備考				

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護論Ⅲ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	柳田 美香（看護師・教員） 三輪 友大（認知症介護指導者・施設管理者）	1 単位 30 時間	講義・演習	3 年 前 期
授業の概要	・退院支援、退院調整および他職種との連携について学ぶ ・事例を用いて療養者と家族のアセスメントを行い在宅看護過程の特徴を学ぶ ・医療依存度の高い子どもの療養者および地域で生活する認知症高齢者を理解する			
授業の到達目標	①退院支援、退院調整における看護師の役割を理解する ②他職種との連携および在宅ケアチームにおける看護師の役割を理解する ③在宅で生活する療養者と家族のニーズに応じた在宅看護の展開を理解する ④地域で生活する認知症高齢者を理解する			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	退院支援・退院調整、ケアマネジメント、他職種との連携について	講義	柳田	
2	在宅療養の実際(さまざまな制度と他職種連携)	講義		
3	在宅(訪問看護)における看護過程の特徴	講義		
4	事例の看護過程展開①	演習		
5	事例の看護過程展開②	演習		
6	事例の看護過程展開③	演習		
7	事例の看護過程展開④	演習		
8	事例の看護過程展開⑤	演習		
9	訪問看護の演習①	グループワーク		
10	訪問看護の演習②	グループワーク		
11	訪問看護の演習③	演習		
12	訪問看護の演習④	演習		↓
13・14・15	地域で生活する認知症高齢者の理解	講義・演習	三輪	
学習課題 (事前・事後)	①授業後、自宅にて必ずテキストを読み復習を行う ②「看護過程の展開」の講義前は既習したCOPDおよび在宅酸素療法について各自が復習を行う ③「訪問看護演習」の講義前後は、提示した事例の疾患について自己学習を行う			
成績評価の方法	①筆記試験 90点 ②訪問看護演習グループ発表および授業態度 10点 (グループ発表日に欠課および欠席をした者は減点とする)			
テキスト * 参考文献等	①地域・在宅看護の基盤(医学書院) ②地域・在宅看護の実際(医学書院) 他、随時資料配布			
学生へのメッセージ	2年次に学んだ在宅看護論の内容を踏まえながら、事例を基に在宅における看護過程の展開を学んでいきます。また訪問看護演習を通し、訪問看護の実際を学び、3年次前期に行う訪問看護ステーション実習における注意点なども学んでいきましょう。			
備考				

専門分野（地域・在宅看護論）

授業科目	地域・在宅看護論Ⅳ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	柳田 美香(看護師・教員)	1 単位 15 時間	講義	3 年 前～後 期
授業の概要	在宅医療をささえる訪問看護の役割について理解する。			
授業の到達目標	・地域包括ケアシステムの中で在宅医療(訪問看護)の位置づけを知る。 ・地域包括ケアシステム実現につなぐ地域ケア会議(演習)を通じて多職種協働の必要性を知る。 ・理想的な自分たちの訪問看護ステーションを紙上に設置する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	授業の概要説明 自己の学習課題の明確化	講義・グループワーク	柳田	
	求められる医療 地域包括ケアシステムについて	講義・グループワーク		
2	訪問看護ステーションを創設する	グループワーク		
3	グループワーク			
4	〃			
5	〃			
6	発表準備	グループワーク		
7	創設した、訪問看護ステーションの発表	発表会		
試験	〃 終了後、時間内にレポート課題提出			
学習課題 (事前・事後)	グループワークに必要な自己学習 1・訪問看護制度について 2. 介護保険制度について(介護保険制度の理念、仕組み、サービスの中身を知る)			
成績評価の方法	・自己評価表提出10点(毎回授業後提出する 未提出や提出遅れは減点:2点/回) ・学習態度状況10点(グループワークの不参加状況等あれば随時減点:2点/回) ・グループ発表30点(配点表:別紙提示) ・レポート課題50点(内容に加え未提出や提出遅れは減点)		計100点	
テキスト				
* 参考文献等	国民衛生の動向			
学生へのメッセージ	グループワークで模擬訪問看護ステーション作成まですすめていきます。 各自が自己・グループの学習目標を確認し有意義なグループワークが行えるように努めてください。			
備考	グループ編成:7グループ (1グループ5～6人) レポート課題テーマ:「地域の中で看護職に求められる役割について私が考えること」			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義	1 年 後 期
授業の概要	成人期にある対象を生活者の視点からとらえ、その対象への看護の目的と機能を理解し健康の保持・増進に向けた支援について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 成長発達における成人期の特徴と発達課題を理解する。 2. 成人期の健康問題を生活との関連から理解し、その予防としての成人保健対策について理解する。 3. 成人期の健康問題を労働の面から考えその予防についての対策を理解する。 4. 成人看護に有用な理論を理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	1. 成人とは	講義		梅木
2	2. 成人期の特徴			
3	3. 成人各期の発達課題			
4	4. 成人の生活			
5	5. 成人を取り巻く環境			
6	6. 生活習慣病とは			
7	7. 保健・医療・福祉施策と健康課題			
8	8. 健康を支援する社会政策			
9	9. 生活ストレスに関連する健康障害(ストレスとは)			
10	10. 労働に関する健康障害			
11	11. 慢性疾患を有する患者の特徴			
12	12. 慢性疾患を有する患者の看護			
13	13. 成人看護に用いられる理論①ストレスコーピング理論			
14	14. 成人看護に用いられる理論②自己効力理論・危機理論			
15	15. 成人看護に用いられる理論③成人学習理論他			
試験	終講試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	講義の中で指示する。			
成績評価の方法	筆記試験・レポート提出、授業態度を成績に含める。			
テキスト *参考文献等	成人看護学総論(医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)			
学生へのメッセージ	身近にいる成人期の方々の生活や健康に興味関心をもつことから始めましょう。 成人看護に有用な理論は臨地実習での看護実践に活かします。			
備考				

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	山口 和子(救急認定看護師) 中村 まい(クリティカルケア認定看護師) 龍田 幹政(救急認定看護師) : 急性期(14時間) 兼川 五月(30時間): 周手術期(看護師・教員)	1 単位 45 時間	講義・演習	2 年 前～後 期
授業の概要	急性期看護の概念および特徴を理解する。 救急救命に関する知識および技術を学ぶ。 災害時における看護の役割を学ぶ。 手術療法を受ける対象の看護について講義・演習を通して理解する。			
授業の到達目標	1. 急性期の対象の特徴と看護の特性を理解する。 2. 成人の救急蘇生法及び救急救命における看護の役割について理解する。 集中治療室における対象の危機的状況及び看護について理解する。 演習をとおして基礎的な救急蘇生法の手技を習得する。 3. 周手術期各期の看護を理解する。 手術侵襲を受けた生体の反応について理解する。 術後合併症予防の看護について理解する。			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法	担当	
	【急性期】			
1	急性期における対象の理解	講義	山口	
2	救命救急看護	↓	↓	
3	〃 処置技術 家族看護	↓	山口	
4	集中治療を必要とする患者の看護	講義	中村	
5	BLS・止血法	演習	山口	
6	〃		↓	
7	災害看護	講義	龍田	
試験	終講試験	試験	山口	
	【周手術期】			
1	周術期看護概論(周術期看護・周術期安全管理)	講義	兼川	
2	手術前患者の看護	↓	↓	
3	手術前患者の看護	↓	↓	
4	手術中患者の看護(手術室看護師の役割・麻酔導入時の看護・手術体位と影響)	↓	↓	
5	手術中患者の看護(手術室における看護の展開)	↓	↓	
6～15	以下、次ページに記載	講義	兼川	
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	山口 和子(救急認定看護師) 中村 まい(クリティカルケア認定看護師) 龍田 幹政(救急認定看護師) : 急性期(14時間) 兼川 五月(30時間): 周手術期(看護師・教員)	1 単位 45 時間	講義・演習	2 年 前～後期
授業の概要	前のページと同じ			
授業の到達目標	前のページと同じ			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法		担当
6	手術中患者の看護(手術室における看護の展開)	講義		兼川
7	手術後患者の看護(手術侵襲と生体反応・手術後回復促進のための看護)	↓		
8	手術後患者の看護(早期離床・術後疼痛・術後出血)			
9	手術後患者の看護(呼吸器合併症・消化器合併症・術後せん妄・ドレーン管理)			
10	食道再建術を受ける患者の看護			
11	胃切除術を受ける患者の看護	↓		
12	事例における術後患者の看護			演習・グループワーク
13	↓	↓		
14	↓			
15	まとめ	講義・グループワーク		
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)	配付資料で授業後に復習をすること			
成績評価の方法	授業態度 筆記試験等 【急性期】山口:50点 中村:20点 龍田:30点 合計100点			
テキスト * 参考文献等	【別巻】臨床外科総論(医学書院) 臨床外科各論(医学書院) 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) * 周手術期看護1～3(医歯薬出版)、まんがで見る術前・術後ケアのポイント(照林社)			
学生へのメッセージ	経過別看護Ⅰ(急性期)実習につながるように講義と演習に取り組みましょう。			
備考	急性期と周手術期の2回の評価の平均が最終評価点となる			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利(10時間):呼吸機能障害(看護師・教員) 鳥取和代(10時間):内分泌・栄養代謝障害(糖尿病認定看護師) 豊永 真理子(10時間):腎機能障害(看護師)	1 単位 30 時間	講義	1 年 後 期
授業の概要	慢性期にある対象の看護を学ぶ。 機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診るⅠで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて患者さんの回復過程を整える看護について学ぶ。			
授業の到達目標	①呼吸のしくみと症状が起こるメカニズムを想起する。 ②呼吸機能障害のある対象を理解する。 ③呼吸機能障害のある対象に必要な看護を理解する。 ④慢性期の呼吸機能障害のある対象の自己管理支援の方法を理解する。 ①内分泌・栄養代謝のしくみと症状が起こるメカニズムを理解する。②内分泌・栄養代謝障害のある対象を理解する。 ③内分泌・栄養代謝機能障害のある対象に必要な看護を理解する。 ④慢性期の内分泌・栄養代謝機能障害のある対象の自己管理支援の方法を理解する。 ①腎臓の働きと症状が起こるメカニズムを想起する。 ②腎機能障害のある対象を理解する。 ③腎機能障害のある対象に必要な看護を理解する。 ④慢性期の腎機能障害のある対象の自己管理支援の方法を理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	呼吸機能検査および検査を受ける患者の看護	講義		梅木
2	気管支喘息患者の看護			
3	慢性閉塞性疾患患者の看護①			
4	慢性閉塞性疾患患者の看護②			
5	胸腔ドレナージを受ける患者の看護	↓		
試験	終講試験	試験		↓
残り10回	内分泌・代謝障害 腎機能障害は、次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利(10時間):呼吸機能障害(看護師・教員) 鳥取和代(10時間):内分泌・栄養代謝障害(糖尿病認定看護師) 豊永 真理子(10時間):腎機能障害(看護師)	1 単位 30 時間	講義	1 年 後 期
授業の概要	前のページに記載			
授業の到達目標	前のページに記載			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	食事療法時の看護	講義	鳥取	
2	運動療法時の看護			
3	薬物療法時の看護			
4	糖代謝障害の主な合併症についてとその看護			
5	〃			
試験	終講試験	試験		
1	腎機能障害患者の理解	講義	豊永	
2	透析療法時の看護			
3	症状に応じた看護			
4	〃			
5	検査・処置時の看護			
試験	終講試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	①授業後、自宅にて必ずテキストを読み復習を行う。 ②看護の視点で病気をみるⅠで学んだことを復習する。 ③看護の視点で病気をみるⅠで学習した病態生理用紙を活用する。			
成績評価の方法	【呼吸機能障害】①筆記試験(看護の視点で病気をみるⅠの呼吸機能障害の内容も含む) ②授業態度 (授業を受ける姿勢と必要物品の忘れ物も含む) 【内分泌・栄養代謝機能障害】①筆記試験 【腎機能障害】①筆記試験			
テキスト	①成人看護学2 呼吸器(医学書院) ②基礎・臨床看護技術(医学書院) 成人看護学6 内分泌・代謝(医学書院) ③解剖生理学(医学書院) * 参考文献等 成人看護学8 腎/泌尿器(医学書院) ④フィジカルアセスメント徹底ガイド呼吸(中山書店)			
学生へのメッセージ	呼吸は人間が生きる上でとても大切な働きです。何らかの原因により呼吸機能が障害された患者の特徴を理解し、看護師として、どのようなことに注意しながら看護を行なう必要があるのかを一緒に学んでいきましょう。 内分泌・栄養代謝・腎機能についても同様です。			
備考	3人の講師の平均が科目の最終評価点となる。			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅲ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	永野 薫(20時間):循環機能障害(看護師・教員) 堺 優子(看護師・教員)・杉山 菜々子(看護師・教員)(10時間):運動器障害	1 単位 30 時間	講義・演習・ グループ発表	1 年 後 期
授業の概要	・回復期にある対象の特徴を理解し、ADL拡大や自立への看護を学ぶ。 ・機能障害のある患者の看護では看護の視点で病気をみるⅠで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて、患者の回復過程を整える看護について学ぶ。			
授業の到達目標	・循環機能障害をもつ患者の特徴を理解し、その症状に応じた看護を学ぶ。 ・運動器は主体的な学習により、病理学の理解と運動器障害をもつ患者の看護を総合的に理解する。 ・グループワークを通して主体的に学ぶ姿勢を習得する。また発表を行うことで他のグループの疾患を理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)	【循環機能障害】			
1	循環機能障害患者の理解	講義	永野	
2・3	症状に応じた看護	講義	↓	
4・5	検査・処置を受ける患者への看護	講義		
6・7	虚血性心疾患患者の看護	講義・演習		
8・9	心不全患者の看護	講義		
10	治療を受ける患者への看護	講義		
試験	終講試験	試験	永野	
(2)	【運動器障害】			
1	大腿骨幹部骨折(骨接合術)	グループ発表・講義	堺・杉山	
2	大腿骨幹部骨折(骨接合術)	グループ発表・講義	↓	
3	腰椎圧迫骨折	グループ発表・講義		
4	腰椎圧迫骨折	グループ発表・講義		
5	橈骨遠位端骨折	グループ発表・講義		
試験	終講試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	・授業後、自宅で必ずテキストを読み復習を行う。 ・看護の視点で病気をみるⅠで学んだことを復習する。 ・看護の視点で病気をみるⅠで学習した病態生理用紙を活用する。 ・運動器は、看護の視点で病気をみるⅠで作成した資料・パワーポイントを使って発表するため準備しておく。 発表の翌日に学習した資料一式を教員へ提出する。			
成績評価の方法	・循環機能障害患者の看護は筆記試験で評価を行う。＊課題学習等評価に含めることもあります。 ・運動器は定期試験80点・自己学習ファイル提出10点・プレゼンテーション10点で評価を行なう。 (看護の視点で病気をみるⅠの運動機能障害の内容も含む)			
テキスト ＊参考文献等	・専門Ⅱ 循環器 成人看護学 医学書院 ・専門Ⅱ 運動器 成人看護学 医学書院			
学生へのメッセージ	循環器および運動器に疾患を持ち、なんらかの機能に問題がある人及びその家族に対する看護について興味を持って学びましょう。			
備考	【循環機能障害】【運動器症障害】の2つの評価の平均が科目の最終評価点となる			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅳ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	櫻木 ゆり・岩松 香菜子(16時間):脳神経障害 (摂食嚥下認定看護師) 鶴留文代(10時間):排尿・排便機能障害(皮膚排泄認定看護師) 梅木 恵利(4時間):感覚器障害(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	2 年 前 期
授業の概要	回復期にある対象の看護を学ぶ。機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診るⅡで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて患者さんの回復過程を整える看護について学ぶ。			
授業の到達目標	(1)【脳神経障害】脳神経障害をもつ対象の特徴を理解し、その症状に応じた看護と生活の再構築についてを学ぶ。 (2)【排泄機能障害】排泄機能障害をもつ対象の特徴を理解し、その症状に応じた看護を学ぶ。 (3)【感覚器障害】①感覚器は、人間が生きていく上でそのひとらしく生活するために重要な役割を果たしていることを理解する。 ②感覚器障害における検査や治療に伴う看護を理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
	【脳神経障害】			
1	主な症状・病態に対する看護	講義	岩松・櫻木	
2	主な検査・処置の看護			
3・4	咀嚼・嚥下・口腔ケアの実際			
5・6	障害に応じた看護			
7・8	脳血管障害患者の看護	演習		
試験	終講試験	試験	↓	
	【排泄機能障害】			
1	排せつ機能障害の看護	講義	鶴留	
2	手術後看護と合併症			
3	排尿機能障害の看護			
4	ストーマケアの実際 社会福祉	講義		
5	ストーマサイトマーキングとストーマ管理	演習		
試験	終講試験	試験	↓	
	次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト *参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅳ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	櫻木 ゆり・岩松 香菜子(16時間):脳神経障害 (摂食嚥下認定看護師)	1 単位	講義・演習	2 年
	鶴留文代(10時間):排尿・排便機能障害(皮膚排泄認定看護師)			
	梅木 恵利(4時間):感覚器障害(看護師・教員)	30 時間		前 期
授業の概要	前ページに記載			
授業の到達目標	前ページに記載			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
	【感覚器障害】			
1	口腔・咽頭・喉頭障害がある患者の看護	講義・演習	梅木	
2	皮膚の物理・科学的機能に障害がある患者の看護	↓	↓	
	終講試験	試験	↓	

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅴ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	首藤麻里(12時間)(緩和ケア認定看護師):終末期・がん看護 小倉直美(2時間)(看護師・教員):終末期・がん看護 工藤 加奈子(12時間):消化機能障害(看護師・教員) 工藤 加奈子(4時間):血液・造血機能障害	1 単位 30 時間	講義・演習	2 年 前 期
授業の概要	終末期にある対象の特徴を理解し、安楽・安寧を目指す終末期看護の特性を学ぶ。 機能障害のある患者の看護では、看護の視点で病気を診るⅡで学んだ症状が起こるメカニズムをふまえて対象の回復過程を整える看護について学ぶ。			
授業の到達目標	(1)＜終末期看護＞＜がん看護＞ がん看護、終末期看護について理解する。 (2)＜消化機能障害の看護＞ 消化機能障害に応じた看護を理解する。 (3)＜血液・造血機能障害の看護＞ 血液・造血管機能障害に応じた看護を理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
	【終末期看護・がん看護】			
1～7	緩和ケアの現状、チームアプローチ	講義		首藤
	緩和ケアにおけるコミュニケーション			↓
	終末期看護における倫理的課題			↓
	身体症状のアセスメント			小倉
	全人的ケア			↓
	臨死期のケア			↓
	家族ケア	↓		↓
試験	終講試験	試験		首藤/小倉
	【消化機能障害の看護】			
1～6	1. 消化機能障害患者の理解、経過別にみた患者の看護	講義		工藤
	2. 症状に対する看護、検査を受ける患者の看護	演習		↓
	3. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:食道疾患(食道がん、逆流性食道炎)	演習		↓
	4. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:胃疾患(胃潰瘍/十二指腸潰瘍)	演習		↓
	以下、次ページに記載			
	次ページに記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト *参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考	次ページに記載			

専門分野（成人看護学）

授業科目	成人看護学Ⅴ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	首藤麻里(12時間)(緩和ケア認定看護師):終末期・がん看護 小倉直美(2時間)(看護師・教員):終末期・がん看護 工藤 加奈子(12時間):消化機能障害(看護師・教員) 工藤 加奈子(4時間):血液・造血機能障害	1 単位 30 時間	講義・演習	2 年 前期
授業の概要	前ページと同じ			
授業の到達目標	前ページと同じ			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
	5. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:腸疾患(大腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病)	講義	工藤	
	6. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:膵・胆管疾患(胆嚢炎)			
	7. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:膵疾患(急性膵炎、慢性膵炎)			
	8. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:肝臓疾患(肝炎、肝硬変)			
	9. 治療を受ける患者の看護、疾患を持つ患者の看護:肝臓疾患(肝がん、食道静脈瘤)	↓		
	10. 消化機能障害患者の看護(まとめ)	演習		
試験	終講試験	試験	↓	
	【血液・造血器機能障害の看護】			
1	1. 血液・造血器機能障害患者の理解	講義	工藤	
	2. 治療・処置を受ける患者の看護 (骨髄移植時の看護)	↓		
2	3. 血液・造血器機能障害患者の看護	↓		
試験	終講試験	試験	↓	
学習課題 (事前・事後)	①授業後、自宅にて必ずテキストを読み復習を行う ②看護の視点で病気を診るⅡで学んだことを復習する。 ③看護の視点で病気を診るⅡで学習した病態生理用紙を活用する。			
成績評価の方法	(1)終末期・がん看護・・・筆記試験(100点) (2)消化機能障害の看護・・・筆記試験(100点) *ミニテストや課題を評価に追加することがある。 (3)血液造血器機能障害の看護・・・筆記試験(100点) *ミニテストや課題を評価に追加することがある。			
テキスト *参考文献等	【終末期看護・がん看護】・・・緩和ケア(医学書院) 【消化機能障害の看護】・・・専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器(医学書院) 【血液・造血器機能障害の看護】・・・専門分野Ⅱ 成人看護学[4](医学書院)			
学生へのメッセージ	人生の終焉を迎える患者や、その家族への看護について学びを深めましょう。 消化器の解剖・整理を踏まえて消化器症状を理解し、患者さんの回復を促進する看護について学びましょう。 血液は全身を巡っています。血液疾患に伴って起こる全身への影響を学習していきましょう。			
備考	各終講試験の平均が最終評価点となる			

専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	堺 優子(看護師・教員)(20時間) 大西 輝彰・佐土島 悠(介護支援専門員・施設管理者) (10時間)	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要	老年期にある対象の変化を知り、高齢者のライフステージとその健康課題を学ぶ。 社会構造の変化や人口の高齢化に伴う高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度について学ぶ。			
授業の到達目標	高齢者の身体的、精神的、社会的変化を知り、ライフステージとその健康問題を理解する。 社会構造の変化や人口の変化及び高齢者・家族を取り巻く保健医療福祉制度を理解する。 高齢者の尊厳とQOLを尊重した支援について理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)1	導入	講義	堺	
2	ライフサイクル「祖父母のライフヒストリーの語りを聞く」	グループワーク		
3	生活の視点から老年期を理解する。(高齢者体験)	グループワーク		
4	〃			
5	加齢に伴う身体的変化	マトリックス作成		
6	〃			
7	人口学的指標から老年期を理解する。	講義		
8	〃			
9	高齢者の生活の場を理解する。			
10	高齢者虐待・成年後見制度			
試験	終講試験	試験	堺	
(2)1	・高齢者と社会システム	講義	大西・佐土島	
2	高齢者を取り巻く社会システム			
3	保健医療福祉施設における看護			
4	介護保険と高齢者看護			
5				
試験	終講試験	試験	大西・佐土島	
学習課題 (事前・事後)	高齢者模擬体験			
成績評価の方法	堺 事前課題:「祖父母のライフヒストリーの語りを聞く」夏休み前提示 ・筆記試験＋課題レポート＋マトリックス作成＝100点 ※レポート課題提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また授業中の私語や居眠りに関しても態度評価にて減点対 大西・佐土島 ・終講試験(100点)			
テキスト *参考文献等	専門分野 老年看護学(医学書院) 国民衛生の動向(厚生統計協会)			
学生へのメッセージ	加齢に伴う変化は、成人期の皆さんにはまだまだ未知の世界だと思います。様々な事に興味関心を持ち、視野を広げて、自分ではない他者を理解できるように一緒に学習していきましょう。			
備考	レポート様式:A4レポート1枚程度 表題・学年・出席番号・氏名を明記する。パソコン使用可 2回の評価の平均が科目の最終評価となる			

専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	宮川 智子(看護師・教員)	2 単位 30 時間	講義・演習	2 年 前 期
授業の概要	老化により日常生活が障害された対象の看護を学ぶ。また、健康障害を持った老年期にある対象を、生活機能の視点からアセスメントし残存機能を行かした援助を習得する			
授業の到達目標	1. 老化による日常生活上の障害をアセスメントし、その看護に必要な知識を習得する。 2. 健康障害を持った老年期にある対象の、生活機能の視点からアセスメントし、残存機能を生かした自立した生活を目指した援助技術を習得する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1～6	高齢者の日常生活を支える看護	講義	宮川	
	1)食事の看護ケア	グループワーク		
	2)排泄の看護ケア	マトリックス作成		
	3)清潔の看護ケア			
7・8	事故の予防と急変・救急時の対応	シミュレーション		
9～14	高齢者に特有な症状・疾患・障害	グループワーク		
	1)痛み・掻痒症・浮腫	プレゼンテーション		
	2)睡眠障害・うつ・せん妄			
	3)パーキンソン病・感染症			
	4)低栄養			
	5)脱水症・熱中症・骨粗鬆症			
15	コミュニケーション障害のある高齢者の看護	講義		
	視覚障害・聴覚障害・失語症・構音障害			
試験	終講試験		宮川	
学習課題 (事前・事後)	マトリックス グループワークプレゼンテーション			
成績評価の方法	筆記試験・小テスト・グループワーク・課題演習の成果を含めて評価とする。 ※レポート課題提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また授業中の私語や居眠りに関しても態度評価にて減点対象とする。 ※単元ごとに小テストを実施します。			
テキスト * 参考文献等	テキスト:専門 老年看護学 医学書院 参考文献:そのつど提示する。			
学生へのメッセージ	学生が主体的に授業に参加し、自ら思考し、課題を解決できるようにグループワークやシミュレーションを行い授業を展開します。			
備考				

専門分野（老年看護学）

授業科目	老年看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	宮川 智子(看護師・教員) 堺 優子(看護師・教員) 内村 香代子(認知症認定看護師)	1 単位 30 時間	講義・演習	2 年 後 期
授業の概要	治療を受ける高齢者及び認知症看護について理解する。また、継続看護を終末期看護を通して高齢者の尊厳と意思決定への支援のあり方を理解する。			
授業の到達目標	1. 治療を受ける高齢者の看護について理解する。 2. 高齢者のQOLを意識した継続看護を理解する。 3. 終末期看護を通して高齢者の尊厳と意思決定への支援のあり方を理解する。 4. 認知症高齢者の看護について理解する。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	薬物療法を受ける高齢者への看護	講義・グループワーク	宮川	
2	与薬の援助の実際	演習	↓	
3・4	手術療法を受ける高齢者への看護	講義・グループワーク		
5・6	高齢者の終末期看護	講義・DVD・レポート課題		
7	受療形態に応じた高齢者への看護	講義		
8～11	認知症の看護		内村	
	1)認知症について	講義	↓	
	2)認知症高齢者とのコミュニケーション	DVD視聴		
	3)認知症の行動・心理症状への対応	レポート課題		
	4)認知症高齢者と家族の社会支援			
12～15	看護過程の展開		堺	
試験	終講試験	試験	宮川	
学習課題 (事前・事後)	DVDを視聴してのレポート課題 授業内容毎のミニテスト 看護過程の展開は、事前に事例を提示するため、病態整理用紙作成や看護過程は自宅課題とする。			
成績評価の方法	筆記試験・小テスト・グループワーク・課題演習の成果を含めて評価とする。 ※レポート課題提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また授業中の私語や居眠りに関しても態度評価にて減点対象とする。 ※単元ごとに小テストを実施します。			
テキスト * 参考文献等	テキスト: 専門 老年看護学 医学書院 参考文献: そのつど提示する。			
学生へのメッセージ	DVD視聴をして、総合的に考え、自分の意見を述べる力を育みます。 また、事例を通してKOMIケア理論で高齢者の看護過程が展開ができるよう支援します。 認知症認定看護師の内村先生から、認知症については詳しく講義して頂きます。			
備考				

専門分野(小児看護学)

授業科目	小児看護学概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	藤田 直子(看護師・教員)橋本 優子(専門看護師)	2 単位 45 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要	当該科目では、子どもの理解に重点をおき、「子どもとは」を問い続ける。子どもの身体的発達、認知・社会的発達、養育者との関係性について捉えた上で子どもを個として尊重できる態度を養う。			
授業の到達目標	①小児看護学で用いられる概念と理論を理解する。 ②小児各期の子どもの成長・発達と看護について理解する。 ③健康障害をもつ子ども・家族への看護について理解する。			
授業計画 (全 22 回)	授業内容	授業方法	担当	
1・2	第1章 小児看護の目ざすところ・小児看護の変遷・小児看護における倫理・小児看護の課題 児童福祉 母子保健 子どもの虐待と看護	講義	藤田	
3・4	第1章 小児と家族の諸統計 第6章子どものととの家族とは 家族アセスメント 第7章 児童福祉 母子保健	講義・グループワーク		
5・6・7・8・9・10	第3章 乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの成長・発達	講義		
11	子どもの成長・発達まとめ	DVD視聴・レポート		
試験	①中間試験	試験		
12	小児臨床看護総論 第1章 病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 健康問題を持つ子どもと家族の看護	講義	藤田	
13	第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(入院中の子どもと家族の看護)			
14	第2章 外来における子どもと家族の看護			
15・16	第2章 在宅療養中の子どもと家族の看護		橋本	
17	第2章 災害時の子どもと家族の看護		藤田	
18	第3章 急性期にある子どもと家族の看護			
19	第3章 周手術期の子どもと家族の看護			
20	第3章 慢性期にある子どもと家族の看護			
21	第3章 終末期にある子どもと家族の看護			
22	病気・障害をもつ子どもと家族の看護まとめ	DVD視聴・レポート		
試験	②終講試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	①事前に配布した資料には目を通し授業に臨む。 ②授業後は必ずテキスト・資料を読み、復習を行う。			
成績評価の方法	①中間試験:100点(筆記試験80点・態度および課題評価点20点) ②終講試験:100点(筆記試験80点・態度および課題評価点20点) ※レポート課題提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また授業中の私語や居眠りに関しても態度評価にて減点対象とする。 ※单元ごとに小テストを実施し終講試験に加点する。(小テスト合計点数の上位者より最大10点を加点する)小テストの別日受験は認			
テキスト * 参考文献等	①小児看護学概論小児臨床看護学総論 医学書院 小児臨床看護各論 医学書院 ②こどもの病気の地図帳 講談社 ③国民衛生の動向 厚生労働統計協会			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野（小児看護学）

授業科目	小児看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	藤田 直子(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	2 年 前～後期
授業の概要	当該科目では、健康障害を持つ子どもが発達課題をクリアしていくことの大変さを理解した上で、子どもと家族の持てる力を活かした支援方法を検討し、実践する能力を育成する。			
授業の到達目標	①子どもの入院環境を調整する技術を習得する。 ②子どものアセスメントに必要な技術を習得できる。 ③検査・処置を受ける子どもの看護技術が習得できる。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	環境を調整する技術 ・事故を防止する入院環境づくり	グループワーク・講義	藤田	
2	食事の援助技術 ・調乳方法・離乳食とは ・経管栄養法など	演習・グループワーク		
3	清潔・排泄・衣生活の援助技術	講義・演習		
4	事例の看護過程展開①	事例DVD視聴・病態学習		
5	事例の看護過程展開②	グループワーク		
6	事例の看護過程展開③	グループワーク		
7	事例の看護過程展開④	グループワーク		
8	事例の看護過程展開⑤(グループ発表)	発表・まとめ		
試験	試験	試験		
9	小児看護の特徴、アセスメントに必要な技術①(コミュニケーション・バイタルサイン)	講義		
10	アセスメントに必要な技術②(身体測定、プレパレーション・演習)	講義・演習		
11	検査処置を受ける子どもの看護①(与薬・輸液・抑制等)	講義・演習		
12	検査処置を受ける子どもの看護②(採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺等)	講義・演習		
13	救命救急の技術(救命蘇生法・気道異物の除去)	講義・演習		
14	技術演習(救命救急・バイタルサイン測定・身体計測等)	演習		
15	事例を通して(吸入・吸引・酸素吸入・安全な環境・遊びの活用)	講義		
試験	試験	試験		
学習課題 (事前・事後)	①事前に配布した資料には目を通し授業に臨む。 ②授業後は必ずテキスト・資料を読み、復習を行う。			
成績評価の方法	終講試験① 100点(論述試験50点＋小児のマトリックス課題30点＋看護過程20点) ※レポート課題提出期限に遅れた場合、授業中の私語や居眠りに関しても態度評価にて減点対象とする。 終講試験② 100点			
テキスト * 参考文献等	①小児看護学概論小児臨床看護総論小児看護学① 医学書院 ②根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院 ③子どもの病気の地図帳 講談社			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野（小児看護学）

授業科目	小児看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	魚住 友彦(小児科医師)	1 単位 30 時間	講義	2 年 前 期
授業の概要	未成熟な子どもの器官や機能および特有の症状・徴候をアセスメント出来る能力を習得し、看護の方法を導くことができるよう応用力をつけることの必要性を学ぶ。			
授業の到達目標	病気の全体像を概観し、体の構造・はたらきと病気の関係を学ぶとともに、発達期からも子どもの体と病気を捉えることが出来る。そして、子ども特有の症状・徴候を学び、基礎看護技術や小児看護学概論と関連させ、小児看護の特性を理解する足がかりとすることが出来る。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	①先天性障害 発達障害	講義		魚住
2	②消化吸収機能			
3	③内分泌機能			
4	④排泄機能			
5	⑤呼吸機能			
6	⑥防衛調整機能			
7	⑦循環機能			
8	⑧造血機能			
9	⑨悪性新生物			
10	⑩母子感染 未熟児 新生児			
11	⑪精神・脳神経機能			
12	⑫遺伝子			
13	⑬ウイルス			
14	⑭細菌			
15	⑮アレルギー			
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	こどもの病気の地図帳(講談社) * 小児生理学(へるす出版)、ナースの小児科学(中外医学社) ナースとコメディカルのための小児科学(日本小児医事出版)			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	前川 礼子(助産師) 福田 詩子(助産師・実習指導教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	1 年 後 期
授業の概要	母性看護学概論では、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病の予防を目的とした看護の基礎として、母性看護の役割、母性看護を実践するための考え方や方向性、社会の現状や課題への取り組みを学ぶ。 女性の権利や責任・倫理についても学ぶ。			
授業の到達目標	1. 母性および母性看護の概念、人間の性と生殖について理解する。 2. 母子保健の動向と対策を理解し、母性を取り巻く社会の問題について考える。 3. ライフサイクル各期の健康問題と看護について学ぶ。 4. リプロダクティブヘルスに関する諸問題の看護について学ぶ。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
1	母性看護の意義と役割・母性看護の対象	講義	福田	
2	リプロダクティブヘルス/ライツ 女性の自己決定を支える看護	講義		
3	セクシュアリティの分化と発達 人間の性の特徴	講義		
4	母性看護における倫理	講義・GW		
5	母子保健統計の動向と母子保健施策	講義		
6	母性看護に関する組織と法律	講義		
7	女性のライフサイクルと家族 母性を取り巻く社会の現状	講義・GW		
試験	中間試験		↓	
8	思春期の健康問題と看護	講義		前川
9	成熟期の健康問題と看護	講義		
10	更年期の健康問題と看護	講義		
11	老年期の健康問題と看護	講義		
12	性感染症・HIV・避妊方法	講義・GW		
13	人工妊娠中絶・性暴力・DV	講義・GW		
14	女性の喫煙 国際化と母子保健	講義		
15	災害時の妊産婦と家族の支援	講義		
試験	終講試験		↓	
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	7回終了後 筆記試験 + レポート課題「母性を取り巻く社会の現状と課題」 100点 15回終了後 筆記試験 + 随時GWおよび課題提出あり 評価に加える。100点 2回の評価点の平均が最終評価点となる			
テキスト * 参考文献等	専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向			
学生へのメッセージ	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を基本に、女性の生き方や権利・健康について学びます。 まず自分のこと、友人・家族のこと、患者さんのこととして身近な問題から考えていきましょう。			
備考				

専門分野(母性看護学)

授業科目	母性看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	福田 詩子(助産師・実習指導教員)(10時間) 後藤 元子(助産師・乳がん認定看護師)(4時間)	1 単位 15 時間	講義	2 年 前 期
授業の概要	女性のライフサイクル各期の健康問題、女性生殖器疾患を対象とした看護で、対象を取り巻く社会の背景を理解し身体的、心理的、社会的問題を捉える必要がある。疾患そのものがセクシュアリティに関連し、生殖器・乳房の喪失によるボディーイメージの障害と女性性の喪失感、パートナーを含めた支援の大切さを学ぶ。			
授業の到達目標	1. 女性生殖器機能障害・機能喪失患者を理解し、身体的、精神的、社会的問題を捉える。 2. 診察・検査と治療・処置 の看護および留意点を学ぶ。 3. 女性生殖器疾患の病態・治療・看護を理解する。 4. 乳がん患者の理解と治療・看護を学ぶ。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1	女性生殖器機能障害・機能喪失患者の理解	講義・GW		福田
2	診察・検査と治療・処置 の看護	講義		↓
3	女性生殖器疾患の症状および病態の理解			
4	女性生殖器の主な疾患の治療と看護			
5	女性生殖器疾患の術前術後の看護	↓		
試験	終講試験	試験		福田
1	乳がん患者の理解	講義		後藤
2	乳がん患者の治療と看護	講義		↓
試験	終講試験	試験		後藤
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	専門分野 成人看護学【9】 女性生殖器 医学書院			
学生へのメッセージ				
備考	2人の講師の評価の平均が最終評価点となる			

専門分野（母性看護学）

授業科目	母性看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	廣渡 理枝(26時間)(助産師) 曾川 幸恵(18時間)(助産師) 福田 詩子(16時間)(助産師・実習指導教員)	2 単位 60 時間	講義 演習	2 年 前～後期
授業の概要	妊娠・分娩・産褥期の看護を中心に周産期の母子の健康と家族を含めた支援について学び、妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常のアセスメントを行える。			
授業の到達目標	1. 妊産褥婦および家族の身体的、心理的、社会的特徴について理解できる。 2. 妊娠期、分娩期、産褥期の生理的な経過を理解し、アセスメントおよび看護の実際を学ぶ。 3. 母子の健康の保持・増進のためのアセスメントができ、必要な看護を理解する。 4. 胎児から新生児への生活環境および生理的变化を理解し、新生児の看護を学ぶ。 5. 妊娠・分娩・産褥期および新生児の異常を理解し、早期発見と健康回復のための看護を理解する。			
授業計画 (全 30 回)	授業内容	授業方法		担当
1～2	正常妊娠の経過と妊婦の看護	講義		廣渡
3～4	妊婦の保健指導の実際			
5～6	妊娠の異常と看護			
7～10	正常分娩の経過と産婦の看護			
11～13	分娩の異常と看護			
試験	筆記試験①			↓
14～15	正常産褥の経過と褥婦の看護			曾川
16～17	産褥の異常と看護			
18～20	正常新生児の看護			
21～22	新生児の異常と看護			
試験	筆記試験②			↓
23～27	産褥期、新生児期の看護過程	↓		福田
28～30	新生児のバイタルサイン測定・観察・沐浴演習	講義、演習		↓
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	13回終了後 筆記試験 100点 、 22回終了後 筆記試験 100点 適宜演習時、夏期休暇中の課題提出あり 2回の筆記試験の平均点の8割と課題点数、授業・演習態度などの評価点を加えた点数が最終評価点となる。			
テキスト	専門分野 母性看護学【2】 母性看護学各論 医学書院			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ	正常でも変化する身体の変化を少しでもイメージできるようになりましょう。			
備考				

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学概論	単位数	授業形態	開講時期
担当教員	中本 亮	1 単位	講義	2 年
実務経験	大学講師	15 時間		前 期
授業の概要	精神看護の基本概念である精神の健康と不健康、心の機能と構造を理解し、歴史的な変遷を踏まえたうえで看護の対象である心を病む（精神障がいをもつ）個人やその家族への看護に必要な基礎的知識を理解する。			
授業の到達目標	1. 精神の健康と不健康について、心の機能と構造を理解する。 2. 対象理解を深めるために、自己理解・他者理解・相互作用について理解し、その必要性を説明できる。 3. 精神医療・保健・看護の変遷と動向を理解し、今日の課題を述べるができる。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
1～2	精神の健康	講義		中本
	・心の機能と構造（自我・発達・危機）			
	・ストレス、ストレスコーピング			
	・強みと回復（ストレングス、レジリエンス、リカバリー）			
3～4	対象理解のコミュニケーション			
	・自己理解、他者理解、相互理解			
	・患者－看護師関係			
5～6	精神保健・医療・看護の変遷と動向			
	・歴史			
	・法律（精神保健福祉法ほか）			
7	精神看護の場のまとめ			
	・病院、施設、学校、職場、地域、家族			
	・まとめ			
試験	終講試験	試験		↓
学習課題 (事前・事後)	事前課題：既習の心理学や人間関係論、発達理論、危機理論について事前に振り返ったうえで授業に臨むこと。 事後課題：各回、学びを振り返り、良き理解者の礎を築く。			
成績評価の方法	授業で活用するワークシート(20%)、試験(80%)			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①（医学書院）			
* 参考文献等				
学生へのメッセージ	私たちは誰もが同じ環境に置かれることで心を病む可能性があります。心を病む人々に対する歴史的な対応の変遷から、現代の精神医療・保健・看護を見つめていきます。良き理解者となるために、知性のみならず感性をも刺激できるような授業を参加型・対話型で展開します。			
備考				

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	原賀 憲亮(14時間):疾患・治療・検査(精神科医師) 桑野 浩明(14時間):精神療法(公認心理師・大学教授) 工藤加奈子・古田小雪(16時間):看護(看護師・教員)	2 単位 45 時間	講義・演習	2 年 前～後 期
授業の概要	精神疾患の治療、検査について学ぶ。 精神障害者を取り巻く現状を歴史的背景、法律の変遷もふまえて、精神障害をどのように捉えることができるのかを学ぶ。 精神障害をもつ人と看護師の信頼をもった関係性を構築するのに必要となる基本的な方法、態度などを学ぶ。			
授業の到達目標	1. 精神障害者の理解を深める。 2. 精神科疾患、治療・検査について理解する。 3. 精神障害者を取り巻く現状を歴史的背景も踏まえて理解する。 4. 精神保健福祉法において定められている処遇について理解し、人権擁護の視点で考えることができる。			
授業計画 (全 20 回)	授業内容	授業方法	担当	
(1)	【精神療法の実際】			
1	・精神療法の実際(導入・契約・介入・終結)	講義	桑野	
2	・転移、逆転移の理解と対応			
3	・精神療法を体験する(フォーカシング体験)			
4	・様々な精神療法(精神分析・認知行動療法・パーソンセンタードセラピー)			
5	・心理検査(質問紙法・投影法・描画法・作業検査・知能検査)			
6	・精神療法の実習(ロールプレイにより精神療法を学ぶ)			
7	・対人援助者の心のケア			
試験	終講試験	試験		
(2)	【疾患、治療、検査】			
1	精神症状	講義	原賀	
2	検査と治療			
3	統合失調症、気分障害			
4	神経症、パーソナリティ障害			
5	認知症、症状精神病			
6	第6章G.H.、アルコール・薬物依存・てんかん			
7	児童思春期の精神障害			
試験	終講試験	試験		
(3)	次のページへ記載			
学習課題 (事前・事後)	次ページに記載			
成績評価の方法	次ページに記載			
テキスト * 参考文献等	次ページに記載			
学生へのメッセージ	次ページに記載			
備考				

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学Ⅰ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	原賀 憲亮(14時間):疾患・治療・検査(精神科医師) 桑野 浩明(14時間):精神療法(公認心理師・大学教授) 工藤加奈子・古田小雪(16時間):看護(看護師・教員)	2 単位 45 時間	講義・演習	2 年 前～後 期
授業の概要	前ページと同じ			
授業の到達目標	前ページと同じ			
授業計画 (全 20 回)	授業内容	授業方法	担当	
(3)	【看護】			
1	導入 DVD視聴(映画を通して精神疾患について考える)	講義	工藤	
2	ワークシートにて演習			
3	精神医療福祉の歴史			
4	精神看護学とは(精神を病むということ、精神障害を持つ人の体験、 「心のケア」と日本社会、精神看護の課題)		↓	
5	精神障害をもつ人を守る法・制度(入院形態について)		古田	
6	(処遇について:通信、面会、電話)			
7	精神科看護における安全管理(病棟環境の整備、隔離・身体拘束)			
8	(自傷行為、離院、暴力予防プログラムなど)	↓	↓	
試験	終講試験	試験	工藤・古田	
学習課題 (事前・事後)	授業内容のミニテスト有り			
成績評価の方法	筆記試験			
テキスト * 参考文献等	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②(医学書院)			
学生へのメッセージ	精神看護学全体の講義を通じて、「精神障害を持ちながら生活をしている人」を理解し、必要な看護、支援を考えます。 そのために、この精神看護学Ⅰでは精神疾患の基礎知識を習得し、精神看護の歴史や基礎となる精神看護の考え方を学びましょう。			
備考	3回の評価(筆記試験)の平均が最終評価点となる			

専門分野（精神看護学）

授業科目	精神看護学Ⅱ	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	工藤 加奈子(看護師・教員) 古田 小雪(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	3 年 前 期
授業の概要	精神科疾患に特有の症状や治療・検査を学び、精神障害者の生活のしにくさを理解する。また、看護過程を展開することでストレスやレジリエンスを支援する看護の視点を学習する。 精神障害者と看護師の治療的コミュニケーションについて考える。			
授業の到達目標	1.精神科疾患に特有の症状や治療、検査時の看護について理解する。 2.精神障害者を取り巻く社会の動向を知り、社会復帰に向けた看護について理解する。 3.看護過程の展開演習を通して、慢性的に経過している統合失調症患者の看護について学ぶ。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法		担当
1	診察に伴う援助、薬物療法に伴う援助	講義		古田
2	痙攣療法を受ける患者の看護	講義		
3	社会療法を受ける患者の看護	講義		
4	精神障害をもつ人と「患者-看護師関係」の構築	講義		工藤
5	精神障害を持つ人との関係の振り返り(プロセスレコード)	講義・演習		
6	精神障害をもつ人への看護援助の展開 (事例:統合失調症)			
7				
8				
9	精神科患者の現状、社会復帰に向けた援助、精神障害をもつ人の地域における生活への支援	講義・演習		工藤
10	精神障害者の看護(双極性感情障害・うつ病)			
11	精神障害者の看護(不安症、強迫症、ストレス障害 等)			
12	精神障害者の看護(解離症群、神経症 等)			
13	精神障害者の看護(薬物関連症群、パーソナリティ障害、てんかん)			
14	精神障害者の看護(身体疾患を合併している患者への看護)			
15	リエゾン精神看護、災害時の精神保健			
試験	終講試験	試験		工藤 古田
学習課題 (事前・事後)	講義内容のミニテストを行う事がある。 看護過程展開については課題があり、評価点を10点とする。			
成績評価の方法	筆記試験100点(2名の教員で点数配分を行い、提示する。)			
テキスト * 参考文献等	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)			
学生へのメッセージ	精神看護学全体の講義を通じて、「精神障害を持ちながら生活をしている人」を理解し、必要な看護、支援を考えます。精神看護学Ⅱでは精神疾患の特徴を理解し、疾患を持ちながら生活する人への看護援助について学びましょう。			
備考				

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目	看護管理	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	倉地 美智子(看護師・看護部長)(4時間) :看護管理 龍田 幹政(救急認定看護師)(2時間) :看護管理 柿坂 静香(看護師・医療安全室長)(8時間) :医療安全	1 単位 15 時間	講義・演習	3 年 前 期
授業の概要	質の高い看護サービスの提供を目指すことは時代の要請です。看護職は医療専門職としてまたチーム医療の一員として、医療の国際的動向と医療・看護提供システム、医療・看護ケアの質に関する概念(リスクマネジメントも含む)について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 看護の質の保証のための組織のマネジメントについて学ぶ。看護専門職として組織の管理者の役割を知る。 2. 国際社会における看護専門職の活動を知り諸外国との協力の中で果たす役割を学ぶ。 3. 災害看護の基礎的知識を学び、災害時の看護の役割を理解する。			
授業計画 (全 7 回)	授業内容	授業方法		担当
(1)1～2	【看護管理】 ・看護管理過程 看護サービスの組織化 看護管理のスキル	講義		倉地
	・看護専門職の活動と卒後・現任教育	↓		↓
	・看護と経営			
	・看護政策および医療施設を取り巻く社会状況			
	・国際機関の動き 国際協力活動の実際	↓		↓
3	・災害の定義、災害の種類と災害サイクル	講義		龍田
	・災害医療とトリアージ	↓		↓
	・災害各期の看護師の役割	↓		↓
試験	終講試験	試験		倉地・龍田
	【医療安全】			
(2)1～4	・医療安全と看護の責務	講義・DVD		柿坂
	・医療安全体制の整備とセーフティマネジメントの基本	↓		↓
	・医療機関における安全対策	↓		↓
試験	終講試験	試験		柿坂
学習課題 (事前・事後)				
成績評価の方法	筆記試験 :看護管理100点(倉地70点 龍田30点)・医療安全100点			
テキスト * 参考文献等	専門分野 看護の統合と実践② 看護管理 (医学書院) 専門分野 看護の統合と実践② 医療安全 (医学書院) いのちとこころを救う災害看護(学研)			
学生へのメッセージ	療養環境とは何か、いまそこに何が求められているのか、社会が看護者に問うているもの、また看護者が問うていかなければならないことを考えこれからの看護を追求していきましょう。			
備考	【看護管理】【医療安全】の2つの評価の平均が最終評価点となる			

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目		看護倫理	単位数	授業形態	開講時期
授業担当 実務経験		荒木 正見(哲学 倫理学 非常勤講師) 芹野 恭子(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	3 年 前・後 期
授業の概要		① 医療に携わる者の倫理についての基本を学び、インフォームドコンセントについて学ぶ ② 倫理的な問題のアプローチ方法を学ぶ ③ 事例をとおして、倫理的態度の獲得のための自己の課題を考える ④ 看護専門職の倫理について実習の場面から考える			
授業の到達目標		① 医療従事者として倫理的態度を獲得する ② 事例をもとに看護実践の倫理について考え、自己の看護観を確立する ③ 看護者の立場で倫理的な問題をとらえ倫理綱領を実践に活かす意味について理解する			
授業計画 (全 15 回)		授業内容	授業方法	担当	
4月	1	倫理学の基本的な考え方 (テキスト第1部1章)	講義	荒木	
	2	インフォームドコンセント (テキスト第1部2章)	講義・演習		
	3	看護倫理とは何か (テキスト第2部6章)			
	4	専門職の倫理 (テキスト第2部7章)			
5月	5	倫理的問題へのアプローチ (テキスト第2部8章)			
	6	倫理的問題へのアプローチ			
8月	7	倫理的態度の獲得のための自己課題		芹野	
	8	倫理的問題のアプローチの手法	演習・グループワーク		
	9	事例演習 時間内に課題に取り組み提出(評価②)	演習・グループワーク		
11月	10	自己の看護観を発表する (評価③) レポート提出	演習		
	11	テーマ「3年間の実習を終えて今自分が大事だと思っていること」	演習		
	12	倫理的な問題の抽出(実習の場面を通して考える)	演習・グループワーク		
	13	倫理的問題のまとめづくり (KJ法 で模造紙に整理)			
	14	倫理綱領をふまえた問題の整理・分析 発表			
	15	まとめ	演習・グループワーク		
		筆記試験(評価④)			
学習課題 (事前・事後)		①看護学実習での学びを言語化し発展させておく			
成績評価の方法		荒木: 100点 授業中に提示する 芹野: 100点 授業中の課題およびレポートと筆記試験により評価する。詳細は、1回目の授業で伝達する			
テキスト		系統看護学講座 看護倫理 (医学書院)			
* 参考文献等					
学生へのメッセージ		・実習の場面で「何か違う」「どうしてかな」という気付きを大事にして考える機会にしてほしい ・看護者にとっての日常的な行為は患者にとって非日常なものであることや、 見えていること違うために起こる現象に気付いてほしい ・看護者として業務をする上で倫理的問題に敏感で、ジレンマに対応できる人であってほしい			
備考					

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目	医療安全 I	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	宮川 智子他(看護師・教員)	1 単位 30 時間	講義・演習	2 年 前期
授業の概要	実習前の安全教育の一貫として主に日常生活援助技術について安全で、科学的根拠に基づいた看護技術を修得する。また、臨床場面を想定したシミュレーションを行い臨床判断能力(気づく・解釈する)を養う。			
授業の到達目標	1. 医療事故が起こる要因について復習し、リスクマネジメントの実際を学習する中で、安全で科学的根拠に基づいた実践を学ぶ。 2. 臨床場面を想定した事例を通して、気づく・解釈する臨床推論を学び、臨床判断能力の必要性を理解する。 3. 臨床場面を想定したシミュレーションを通して、臨床推論を活かした援助を実践する。さらに実践を振り返る中で、よりよい看護について探求する姿勢を養う。			
授業計画 (全 15 回)	授業内容	授業方法	担当	
6月 1	医療安全オリエンテーション		宮川他	
8月 2	医療安全の概念	講義		
8月 3	臨床判断能力について	↓		
8月 4・5	臨床場面を想定した事例患者でのシミュレーション前のグループワーク	グループワーク		
6・7・8・9	臨床場面を想定した事例患者のシミュレーション	シミュレーション		
10・11	1 寝衣交換	演習		
12・13	2 口腔・鼻腔内吸引・酸素吸入療法	↓		
14・15	3 ストレッチャーの移送	↓		
試験	筆記試験	試験	↓	
学習課題 (事前・事後)	事前課題: 医療安全オリエンテーションで提示			
成績評価の方法	筆記試験(80点) 授業参加状況(20点)・学習状況、忘れ物、服装・髪型・爪なども含めて態度評価を行い、注意1回につき減点			
テキスト * 参考文献等	専門分野 看護の統合と実践② 医療安全 (医学書院) 専門分野 臨床看護総論(医学書院)			
学生へのメッセージ	2年次の本格的な実習の開始前に授業を組んでいます。真剣に演習に取り組み、演習・シミュレーションで養った臨床判断能力を活かした看護を実習で実践できるように頑張りましょう。			
備考	* 身だしなみについては「看護学生としての身だしなみ」を基準とする。			

専門分野（看護の統合と実践）

授業科目	医療安全Ⅱ		単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	小倉 直美(看護師・教員)他		1 単位 30 時間	講義・演習	3 年 前～後 期
授業の概要	診療の補助技術について、安全で科学的根拠に基づいて実践する看護の技術を習得する。				
授業の到達目標	臨地実習の場面を想定し、安全で科学的根拠に基づいて実践する看護の技術を習得する。 臨床判断能力(気づき・解釈・反応・省察)を身につけるとともに看護場面(診療場面)における事故防止のために知識・技術を習得する。 フィジカルイクザミネーショントレーニングを通じて、異常の早期発見及び対応能力、判断力を養う。				
授業計画 (全 15 回)	授業内容			授業方法	担当
4月 1.2	膀胱留置カテーテル挿入の場面を設定し、感染予防の知識と無菌操作技術安全な管理方法を修得する。			演習	小倉他
3.4	安全で確実な筋肉内注射技術(患者誤認防止策の実施含む)			↓	
5.6	安全な胃管挿入・管理方法・確認技術を修得する。			↓	
試験	試験			試験	
9月 7.8	フィジカルイクザミネーショントレーニング1:呼吸困難のある事例			演習	
9.10.11	安全な輸液管理を理解する。			↓	
	点滴静脈内注射の輸液管理ができる。			↓	
12.13.14.15	フィジカルイクザミネーショントレーニング2:2名の患者の観察・確認			↓	
試験	試験			試験	↓
学習課題 (事前・事後)	事前課題(別紙あり) ＊ 演習と実習で活かせる学習カードを各自作成をする。				
成績評価の方法	筆記試験2回 授業参加状況・学習状況・忘れ物・身だしなみなども含めて態度評価を行う。				
テキスト	専門分野 看護の統合と実践② 医療安全 (医学書院)				
＊参考文献等					
学生へのメッセージ	3年次の本格的な実習が開始される前の5月、後期実習前の9月2回に分けて行います。				
備考	2回の評価の平均を科目の最終評価点とする。				

専門分野

授業科目	基礎看護学Ⅰ実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	兼川 五月 他(看護師・教員)	1 単位 45 時間	実習	1 年 後 期
授業の概要	対象を取り巻く環境を生活の視点から捉え、生活を整えるための看護方法の基本を学ぶ。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	基礎看護学Ⅱ実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	兼川 五月 他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	2 年 前・後 期
授業の概要	看護過程の展開を理解し、対象に応じた看護実践の方法を学ぶ。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	地域・在宅看護論実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	柳田 美香 他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	3 年 前～後 期
授業の概要	療養者に応じた訪問看護を実践する。保健・医療・福祉の連携における看護の果たす役割について理解し継続看護を実践する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	八幡医師会訪問看護ステーション せいてつ訪問看護ステーション 北九州市内のグループホーム 北九州市立総合療育センター 八幡東区役所 生活支援課 地域保健係 製鉄記念八幡病院 腎センター			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	成人看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利 他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	2 年 後 期
授業の概要	慢性期または回復期にある成人期の対象を受け持ち、健康のレベルに応じた看護を実践する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	経過別看護Ⅰ実習(90時間) 経過別看護Ⅱ実習(90時間)	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	梅木 恵利 他(看護師・教員)	2×2 単位 90×2 時間	実習	3 年 前 期
授業の概要	経過別看護Ⅰ(90時間) 周手術期にある対象の経過に応じた看護を実践する。救急外来・集中治療室における看護師の役割を学ぶ。 経過別看護Ⅱ(90時間) 終末期または慢性期にある対象の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を実践する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	老年看護学Ⅰ実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	宮川 智子 堺 優子 他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	2 年 後 期
授業の概要	高齢者の特徴を理解し、日常生活における看護と健康障害に応じた看護を実践する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院 介護老人保健施設 みやこ 年長者の里 介護老人福祉施設 大蔵園 介護老人福祉施設 シルバー・サン・ホーム			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	老年看護学Ⅱ実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	宮川 智子 堺 優子他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	2 年 後 期
授業の概要	高齢者の特徴と健康障害に応じた看護を実践し、高齢者を取り巻く家族や社会システムを理解する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	小児看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	藤田 直子(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	3 年 前～後 期
授業の概要	成長発達の途上にある小児の特徴を理解し、病院と地域において健全な成長発達と健康増進のための働きかけを学ぶ。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	北九州市立八幡病院 春の町保育園 中央しおり保育園 大蔵保育園 杉の実保育園 ふたば保育園 小百合保育園			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	母性看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	芹野 恭子(看護師・教員) 福田 詩子他(助産師・教員)他	2 単位 90 時間	実習	2 年 後 期
授業の概要				
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院 労働者健康安全機構 九州労災病院 公益財団法人 健和会 健和会大手町病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	精神看護学実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	工藤 加奈子 古田 小雪 他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	3 年 前～後 期
授業の概要	精神に障害をもつ対象に応じた看護を実践する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	医療法人光風会 宗像病院 産業医科大学病院 障害福祉サービス事業所 わくわーく			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ				
備考				

専門分野

授業科目	看護の統合と実践実習	単位数	授業形態	開講時期
担当教員 実務経験	小倉 直美他(看護師・教員)	2 単位 90 時間	実習	3 年 後 期
授業の概要	医療チームの中での多職種連携の実際を学ぶ。 看護チームの一員としての役割および自覚を持って看護を実践する。一勤務帯および夜間勤務帯の臨床看護を実践する。			
授業の到達目標	別紙参照			
授業計画	授業内容			
	別紙参照			
実習場所	製鉄記念八幡病院			
学習課題 (事前・事後)	別紙参照			
成績評価の方法	出席、実習態度、看護実践状況、実習記録及びレポートにより総合的にルーブリックを用いて評価する			
テキスト * 参考文献等	適宜紹介する			
学生へのメッセージ	3年間の集大成の実習です。自己課題を明確にして臨んでください。			
備考				